

平成20年度地域密着型多機能ケア推進支援事業
小規模多機能型居宅介護事業所事例集



ケア





平成20年度地域密着型多機能ケア推進支援事業
小規模多機能型居宅介護事業所事例集

はじめに

住み慣れた地域で暮らし続けたいという願いに応え、個々の在宅生活を柔軟に、そして、継続的に支援する小規模多機能ケアの実践のひとつとして、小規模多機能居宅介護は、平成18年（2006年）の4月から地域密着型サービスとして創設されました。

小規模多機能ケアは、従来の施設ケアと異なり、民家など小規模な環境の中でケアしようと全国各地で取り組んできた「宅老所」で実践されてきました。このような取り組みは、平成15年（2003年）6月、厚生労働省老健局長の私的研究会である高齢者介護研究会から報告された『2015年の高齢者介護～高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて～』で取り上げられ、小規模多機能ケアは小規模多機能居宅介護として制度化されました。

現在（平成20年10月1日時点）、岩手県には、30ヶ所の小規模多機能居宅介護事業所があり、各事業所において、地域の特性を生かしながら、創意工夫して取り組んでいることかと思えます。しかし、人員・設備等の運営基準などの解釈やサービスの提供方法等などについて情報が少なく、事業所に従事する方々からは、情報の収集に苦労されている声を耳にします。また、他の事業所から「もっと、事業所間での情報のやり取りがしたい。」「介護従事者同士で悩みを共有したい。」「これから立ち上げたいがどうしていけばよいかわからない。」「もっと小規模多機能サービスを周知させたい。」など要望の声が多く、良い方法がないものかと考えておりました。

そんな中、岩手県において、小規模多機能居宅介護事業所の従業者の資質向上とサービスの周知を目的とした「地域密着型多機能ケア推進支援事業」の公募がありましたので、当法人にて手を挙げさせていただきました。

この事例集は、上記の事業の中のひとつで、特色ある事例集とするため、5つのテーマ（「関係機関との連携」、「地域とのかかわり」、「通い」、「泊まり」、「訪問」）を設定し、岩手県内で実践されている事業所に原稿依頼をさせていただきました。多くの方々に小規模多機能サービスの内容を知っていただくとともに、課題などについても知っていただき、さらに「小規模多機能居宅介護」について理解を深めていただくことを期待するものです。

事例集の作成にあたり、原稿作成を依頼した事業所の方々には、多忙な中、時間を作り協力していただけたことに感謝申し上げます。また、企画作業、事例集編集作業等に精力的に携わっていただいた事業所の方々に厚く感謝申し上げます。

他の事業所の取り組みを参考にしながら、さらに制度を理解し、より良いサービスを提供できるよう、多くの方々が取り組んでいくきっかけとなれば幸いです。また、この事例集を手に取りながら、地域の関係機関などの事業所間での情報交換等が活発に行われることを願っております。

平成20年10月

地域密着型多機能ケア推進支援事業 事務局
社会福祉法人とおの松寿会
小規模多機能型居宅介護事業所長寿庵

施設長 菊池浩之



はじめに

目 次

小規模多機能型居宅介護の背景	1
小規模多機能型居宅介護の基本理念	1
小規模多機能型居宅介護のはたらき	2
小規模多機能型居宅介護 理解のための8つのキーワード	3

岩手県内小規模多機能型居宅介護事業所テーマ別取組事例

通 い

さくらまちケアホーム	5
小規模多機能ホーム「後ノ入」	7
小規模多機能型居宅介護事業所あすなろ	9
小規模多機能型居宅介護にこトピア浄法寺	11

泊 り

小規模多機能型居宅介護事業所長寿庵	13
交流ステーション友愛園	15
多機能ホームさんりく	17
小規模多機能センターやすらぎ	19
かのん小規模多機能センター	21

訪 問

小規模多機能ホームぶんどかんど	23
介護ステーションゆいっこ小規模多機能ホーム	25
多機能ケアセンターほっと大町	27
小規模多機能センターあお空	29

関係機関との連携

小規模多機能型居宅介護事業所かまどっこ	31
小規模多機能ホームひなたぼっこ	33
宅老所せんまや	35
小規模多機能ホームカッケロ	37

地域との関わり

えんどり小規模多機能型居宅介護事業所	39
小規模多機能ホームわが家	41
奥州吉番館	43
シルバーヘルス小規模多機能型居宅介護事業所「北斗」	45
おもえ小規模多機能支援センター	47

岩手県内小規模多機能型居宅介護事業所一覧	49
----------------------	----

本事例集に掲載されている写真は、本人並びに家族の了承を得て掲載しています。

小規模多機能型居宅介護の背景

実践から生まれた小規模多機能型居宅介護

小規模多機能型居宅介護は、一人ひとりのお年寄りの願いに向き合い、寄り添う中から生み出されたもので、2006年4月の介護保険制度の改正で制度化されました。

1980年代に従来の施設ケアとは異なり、支援を必要としている身近なお年寄りを民家など小規模な環境の中でケアしようという動きが、草の根的に始まりました。自宅を開放して、あるいは公共施設を借用して始まったそのケアのスタイルは「宅老所」と呼ばれるようになりました。宅老所は、介護が必要になっても住み慣れた家や地域で暮らし、家族や親しい人々とともに、小規模で家庭的な雰囲気の中で、お年寄り一人ひとりを尊重したケアを実践してきました。

宅老所の中には、「通い」を中心に、「宿泊」や「訪問」などの機能を、介護保険事業や自主事業と組み合わせ提供する事業所も登場し、「小規模多機能ホーム」と呼ばれるようになりました。

たいていの小規模多機能ホームは、初めから複数の機能を用意していたわけではなく、お年寄りが必要と

する支援の内容に応じて提供する機能を追加してきました。目の前にいる人を包括的に支援しているうちに、複数の機能になっていったということです。

このような宅老所の取り組みは、2003年6月、厚生労働省老健局長の私的研究会である高齢者介護研究会から報告された『2015年の高齢者介護～高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて～』で取り上げられ、大きな反響を呼びました。この報告書は、団塊の世代が高齢期を迎える2015年までに実現すべきこととして「高齢者の尊厳を支えるケアの確立」を目標とし、具体的な提言をしたものです。

宅老所が実践してきた自宅や地域にこだわった支援のあり方は、「生活の継続性を維持するための、新しい介護サービス体系」として、在宅で24時間365日の安心を提供する切れ目のない在宅サービスの提供を目的に「小規模・多機能サービス拠点」として取り上げられ、2006年の介護保険法の改正で「小規模多機能型居宅介護」として制度化されました。

小規模多機能型居宅介護の基本理念

安心した生活を支える、3つの考え方

小規模多機能型居宅介護の基本理念は、大きく3つに分けて整理することができます。

1. お年寄りの気持ちに向き合い、寄り添う

- ・本人の願いや希望を受け止め、それを叶える方法を考えます。
- ・そのため、単なるサービスの組み合わせを提供するのではなく、柔軟にサービスの形を変化させます。

2. 24時間365日、切れ目なく暮らしを支える

- ・小規模多機能型居宅介護のサービスの基本は日中の通いですが、本人の状態や家族の状況に合わせて、継続した支援が提供できる体制を整えます。

3. お年寄りが望む暮らしができるよう、支援の内容を調整する

- ・本人の役割や地域の方々との関係を維持・継続できるよう、家族や地域社会との関係まで見据えた関係調整（ケアマネジメント）を行います。

小規模多機能型居宅介護のはたらき

基本となる5つの機能、それぞれの役割

1. 通い

在宅で暮らし続けることを支える基本となるのが「通い」の機能です。多くの多機能型事業所は、通いの機能をサービス利用の際の前提としており、自宅に来てくれる機能や宿泊の機能は、通いの機能の延長線上にあると位置づけています。

小規模ケアにおける通いの規模は、一般的に定員10人程度、最大でも15人です。これは、お年寄り同士が関係を構築したり、介護者がお年寄り一人ひとりの個性を見極め、その人に合った支援を提供したりするのに大きすぎない規模だからです。

小規模多機能型居宅介護に期待される通いの機能には次の3つがあります。

① 柔軟性

固定された時間にとらわれるのではなく、本人の状況や介護者の都合に合わせて、サービスの提供時間や方法を変化させることができます。

たとえば、介護者の出勤時間に合わせ、朝8時から利用する人もいれば、スタッフと一緒に昼食づくりをする人など、その人に合った利用の時間を考えます。また、スタッフが利用者の自宅まで迎えに行ったとき、単なる迎えではなく、必要に応じて出かけるための着替えや朝食の支援など、一人ひとりに合わせた支援をしています。

② 生活を総合的に支える

丁寧に関わることで、スタッフはお年寄りの変化に早めに気づくことができるようになり、通いを利用していない時間帯についても、家族とのコミュニケーションを図りながら支えることが可能になります。

たとえば、自宅を訪問することで、本人の自宅での暮らしぶりを知り、家族の接し方を教えてもらうことで、事業所と自宅での生活を一連の流れをもって考えることができます。

③ 家族や地域社会との関係づくり

お年寄りの自宅での暮らしと家族の状況、さらには地域社会との関わりを把握したうえで、適切なサービス提供を通じて、その関わりを継続、構築、修復を支援します。

たとえば、ご近所付き合いや顔なじみの店など、

本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を取り持つことや、途切れてしまった友人との交流を再開することなど、長年にわたり、さまざまな地域との接点を持ちながら暮らしてきたことを尊重することが大切です。それが、その方の尊厳を守ることにつながります。

2. 宿泊

「通い」と同じ場所を使い、同じスタッフが対応するのが、小規模多機能型居宅介護における「宿泊」の機能です。宿泊は通いの延長であると考えられます。

小規模多機能型居宅介護に求められる宿泊の機能の特徴は次の3つです。

- ① 通いの延長線上で利用することで、通いからそのまま連続的につながった機能であること。
- ② 通いと同じ、なじみの場所に泊まることができるというメリットがあること。
- ③ 通いと同じ、なじみのスタッフが対応してくれること。

3. 訪問

従来の訪問介護とは異なり、自宅で過ごしている時間帯も「通い」や「宿泊」と同じスタッフが「訪問」する機能です。お年寄りの状態の変化によって、急に通えなくなった際に、スタッフが自宅に赴き安否を確認したり、一緒に時間を過ごすというものです。

安心してサービスを利用できるためにも、自宅に来てくれることは、通いや宿泊などで日々継続的にそのお年寄りに関わっているスタッフが望ましいと考えられます。

また、小規模多機能型居宅介護における訪問の機能は、お年寄りや家族のその日の状態によって、提供するケアの内容が変動する可能性をもっています。

4. 併設施設としての住まい*

「住まい」の機能も、自宅に来ていることや宿泊の機能と同様に、「通い」の延長線上にあります。自宅での暮らしの継続が難しくなったとき、そのお年寄りが通い慣れた環境に生活の基点を移すことが

できます。これは、地域から切り離されて移り住むのではなく、自宅と事業所を行ったり来たりできることを指し、在宅生活の延長線上にあることを意味します。お年寄りが自宅での生活を望む場合、たとえば週1回でも自宅に帰ることができる体制を整えることも必要になってくるでしょう。

また、自宅を出て、事業所に住まうことは、その事業所のある地域に住むことになります。そのため、その地域の中に新たな関係性を見だし、築き上げていくことも必要になってきます。事業所を基点として、日中の居場所は別な場所に求めていくなど、活動そのものに多様な広がりを求めることができます。スタッフには、日頃の地域への働きかけや、お年寄りとの地域との橋渡しをすることが求められます。

5. ケアマネジメント

小規模多機能型居宅介護における「ケアマネジメント」の機能は、介護保険におけるケアプランの作成はもちろん、一人ひとりのお年寄りのために事業所の機能を柔軟に組み合わせることが求められます。一施設の機能だけでそのお年寄りの生活を支えることが難しい場合には、医療機関などと連携することも必要です。つまり、内側の機能と外側の機能の調

整という役割を担うことになります。ケアマネジメントにはお年寄りと寄り添っている現場のスタッフの声を反映させることが必要です。

さらに、ケアプラン作成の際には、お年寄りや家族の生活を支えるだけでなく、本人をとりまく地域や友人・知人などとの関係を支えることが求められます。

ポイントは以下の3点です。

- ① 介護保険におけるケアプランを立てるためのケアマネジメントにとどまらない。
- ② ケアマネジメントには計画作成担当者（介護支援専門員）だけでなく、スタッフも含めた事業所のスタッフ全員が参加し、共有し、ケアに活かす。
- ③ ケアマネジメントには、事業所とお年寄りの関係性だけでなく、本人をとりまく地域や家族との関わりも含まれる。

※ 併設施設は必置すべきものではありませんが、生活の継続性や将来のことも考え、住まいを掲載しました。

小規模多機能型居宅介護 理解のための8つのキーワード

小規模多機能型居宅介護にはさまざまな特徴があります。ここではその特徴を8つの項目に分け、わかりやすく説明します。

1 一人ひとりに向き合い、気持ちに寄り添う

小規模多機能型居宅介護では、お年寄り一人ひとりの思いや願いを大切にします。障害があっても認知症であっても、まず一人の人として尊重し、思いや願いを受け止め、共感することから小規模多機能型居宅介護の支援は始まります。

2 本人が気持ちに折り合いをつけていく支援

歳をとるにつれ、以前はできていたことができなくなったり、人の手を借りなければならない状況になっていきます。気持ちのうえでそれを受け入れるのは、簡単なことではありません。小規模多機能型居宅介護では日常的な関わりを通して、お年寄りが自分の状態や周囲の変化を受けとめ、気持ちの折り合いをつけることを支援します。

3 1日の生活がスムーズに流れる

障害があったり、認知症になることで、生活の流れは滞りがちです。たとえば、食事やトイレを自分ですることができない場合、手助けしてくれる人がいなければ、日常生活は成り立ちません。小規模多機能型居宅介護は、1日の流れがスムーズに流れるように、手助けが必要な場面にあわせて適時支援します。

4 家族や地域社会とのつながりを断ち切らない支援

介護が必要になると、それまでそのお年寄りが地域の中で築いてきた友だちづきあいや、地域との関わりが切れてしまいます。小規模多機能型居宅介護は、これまで築いてきたつながりを断ち切ることなく、関係が継続できるよう支援します。

5 自分の家や地域社会から切り離さない支援

これまでは自宅での介護が困難となると、自宅や地域から遠く離れた施設に移り住んでいました。小規模多機能型居宅介護では、介護が必要になっても、自宅やそれに近い環境で生活が続けられるよう支援します。

6 生きる力（人としての誇りや意欲）を奪わない支援

介護が必要になっても、すべてのことができなくなるわけではありません。時間をかければできることは、手を出さずに見守るなど、小規模多機能型居宅介護では一人ひとりのお年寄りの状態を見ながら、本人の誇りや意欲を奪わないよう支援します。

7 なじみの関係を築いていく支援

サービスによって介護する者や居場所が異なると、認知症のお年寄りは混乱してしまいます。小規模多機能型居宅介護では、通いや訪問、宿泊といった機能を一体的に提供することで、継続した関わりの中からのなじみの関係を築くよう支援します。

8 家族や地域社会との関係を調整する支援

一人ひとりのお年寄りの思いや願いを叶えるためには、小規模多機能型居宅介護だけでできることには限界があります。そのため、小規模多機能型居宅介護では、そのお年寄りの思いや生活の状態を家族や地域の方々と共有し、みんなで一緒に支援します。小規模多機能型居宅介護では、そのつなぎ役を担っています。

さくらまちケアホーム

テーマ ～安心とくつろぎの生活の場を提供する～

運営体制

運営主体	社会福祉法人 博愛会	利用料	宿泊費	2,000円
併設事業所			食費	朝食 400円 夕食 600円 昼食 500円
登録定員	24名		おむつ代	必要な方は持参
通いサービス定員	12名		その他	
泊りサービス定員	5名	人員配置の状況	管理者	1名
			計画作成担当者	1名
			看護師	2名
			介護職員	8名
			その他職員	2名

地域の紹介

北上市は、県南西部に位置し、古くから交通の要衝として栄えてきました。現在は企業誘致が活発で、工業・農業・観光でまちづくりを目指しています。また、ふるさとの文化財継承の推進にも熱心な地域です。人口は9万4千人と年々増加傾向にあります。少子高齢化は重要課題のひとつでもあります。

当事業所は、北上市の東部地区に位置し、北上川と和賀川の合流点から繰り広げられる展勝地公園北側に位置しています。この公園は、桜の名所としても有名ですが、一年を通じて桜並木の変化を楽しむことが出来、散歩コースとしても市民の憩いの場となっています。



事業所のプロフィール

当法人では、これまで高齢化社会に対応するため特別養護老人ホーム、ケアハウス等を設置し対応してきました。しかし、次第に施設介護から在宅介護へと目が向けられるようになり、「介護が必要になっても住みなれた地域で安心して暮らし続けたい」と願う方々



を、小規模多機能型居宅介護施設を設置することで支援しようと、平成20年7月に開設しました。北上市では、2番目の施設です。食事は、当法人のケアハウスの厨房で作ったものを、職員と利用者が同じテーブルで食するようにしています。地域の人達が気軽に立ち寄りお茶のみ話が出来るといった施設でありたいと願っています。



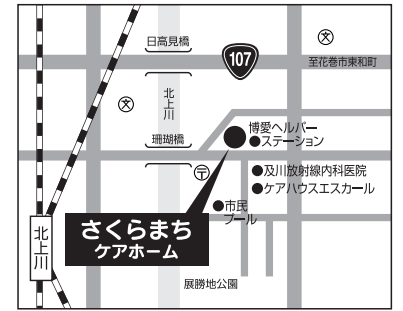
所在地 〒024-0043
岩手県北上市立花10地割36番地1

TEL 0197-62-1168

FAX 0197-62-1167

URL

E-mail



テーマ別取組み状況「通い」について

安心とくつろぎの生活の場を！

北上市には、「さくら」と命名された施設や地区がたくさんあります。私達の施設もその中のひとつ、桜町地区に誕生した「さくらまち」です。初日は、利用者2名からのスタートでした。お互い戸惑いながら、でも何とかゆっくりと時間が過ぎていきました。

徘徊の多かったAさんは、ここへは、仕事にきていると思っています。テーブル拭きやモツブがけ、職員と食事運び、後片付け等、本当に働き者です。夕方になると早く帰りたいBさん、玄関ドアの前から動こうとしません。静かな環境を好むCさん、最初は、(家から出すこと)介護者に戸惑いがあったようですが通いのサービスを受け入れてくれるようになりました。家族の都合で、午後からの利用になる方もいます。利用者のニーズに沿って柔軟な対応ができるようにして



利用者&地域の声

開所時から利用されているAさんに伺いました。「さくらまちを利用してみてどう？」
「人が少ないからのんびりできるよ。職員の顔も覚えたよ。時々、ヒマだなど思うことがあるけど。涼しくなったらどこかへ出かけたいな。」
ご家族からは、「さくらまちを利用するようになってから笑顔が多く、気持ちが楽になった。」と話していただきました。

います。また、徘徊の多かったDさんは、皆と一緒にいる時はムードメーカーです。それぞれ個性豊かな方達です。晴れた日は、近くの展勝地公園の散歩をします。同じ法人の通いにも立ち寄っては、「こんにちは。お邪魔します。」お互い顔馴染みの方たちもいて和やかな時間を過ごしたこともありました。外に出ることで、もっともっと地域の人達との交流が出来ればいいなと思っています。

時々、お隣のお子さんが遊びにきてくれます。「遊びに行っていない？」「お母さんに、行ってきますと言うんだよ。」子供の声はお年寄りの和みになります。もっと多くの子供たちや地域の方々が気楽に立ち寄れる施設にしたいと思います。

まだまだ手探り状態で、戸惑うことも多いのですが、安心とくつろぎの場づくりを目指して、「ただいま奮闘中の一年さくら組」です。

施設の平面図



職員の声

開所して2ヶ月近く経ちましたが、毎日が試行錯誤の連続です。業務の流れなども特養やデイとは考え方を換え、職員自身がゆったりとした気持ちでケアしなければいけないのですが、なかなか出来ないのが現状です。なるべく早く、職員も小規模多機能施設に慣れて、利用者さんに安心してゆったり過ごしていただき、ご家族にも安心してご利用していただける施設になるよう頑張っていきたいと思います。

小規模多機能ホーム「後ノ入」

テーマ ～24時間、365日、切れ目無く暮らしを支えます～

運営体制

運営主体	社会福祉法人 典人会	利用料	宿泊費	3,500円/1泊
併設事業所			食費	朝食 220円 昼・夕 530円 おやつ 100円
登録定員	25名		おむつ代	おむつ代 100円 パット30円
通いサービス定員	15名		その他	
泊りサービス定員	9名	人員配置の状況	管理者	1名
			計画作成担当者	1名
			看護師	1名
			介護職員	10名
			その他職員	

地域の紹介

小規模多機能ホーム「後ノ入」は、岩手県南部に位置する、大船渡市赤崎町という、海と山に囲まれた静かな場所に建てられています。赤崎町は、漁業、農業が盛んで、利用者の方々も携わっていた方がほとんどです。「後ノ入」ホームは以前、ゴルフ場として利用されていた土地に建てられた為、今でも地域の人々の憩いの場として親しまれています。また、地域の方々とのつながりを持つ為に、小中保育園とのふれあいの場を提供していただき、交流を深め地域を上げて福祉活動に取り組んでいます。こうした活動は住み慣れた地域で安心して暮らし続けていただく為には大切で、地域密着型サービスには必要不可欠であると考えています。小規模多機能ホーム「後ノ入」は地域の方々を支えられて運営しています。



事業所のプロフィール

地域で取り組む「大樹を育むケア」
この理念は今年の4月に誕生した、小規模多機能ホーム「後ノ入」を小さな一本の木に例え、地域をあげて大樹に育み、利用者一人一人があたりまえの暮らし、その人らしさを発揮していただけるようお願いを込め、



地域住民の方々と一緒に立ち上げた理念です。
以前地域の方々の憩いの場であったゴルフの練習場に建てられた「後ノ入」は、その恵まれた環境を有効に活用し、地域の方々や子供達とふれ合うことで、これからも利用者、地域住民にとって「止まり木」的な存在でありたいと思っています。
小規模多機能ホーム「後ノ入」を大樹に育ていくため利用者をはじめ、スタッフ、地域が三昧一体となった強い絆を大切にしていきたいと考えています。



所在地 〒022-0007
岩手県大船渡市赤崎町字後ノ入73番地3
TEL 0192-21-2551
FAX 0192-21-2552
URL
E-mail notinoiri-home@shirt.ocn.ne.jp



テーマ別取組み状況「通い」について

従来の枠を超えたサービス「通い」
小規模多機能ホーム「後ノ入」では、「通い」定員が15名で、現在毎日13～15名の方々が利用されております。一方「泊り」平均は約4名となっており、地域の特色として「通い」のニーズが高いことがわかります。「通い」の利用といってもさまざま、朝早くから夜まで利用される方、午前中のみ、午後のみの方もおられます。こうしたサービスは利用者や、その家族の状況・希望に応じて柔軟に対応できることが喜ばれております。また送迎については、近所から通っている利用者の方には手をつないで徒歩にて来所されています。その道のりでは顔なじみの近隣の方々との挨拶によって昔と変わらぬ関係を維持することにも努めています。



利用者 & 地域の声

開所から現在までほぼ毎日「通い」を利用されている利用者の方は、「家に一人であるよりも、皆と楽しく過ごせて嬉しい。畑作業等、昔の経験を今の若い人に伝えることが何より幸せだ。」というありがたい言葉をいただきました。
利用者の方々にとって、新たな生きがいを見つけることで、これからの人生が色とりどりの幸せなものになるような関わりを、今後も展開していきたいです。

施設の平面図



職員の声

開所当時は、小規模多機能サービスという未知のサービスの中で、自分達がどの様にして、利用者の皆さんを支えていか不安でしたが、スタッフ全員が一丸となって取り組むことにより、少しずつではありますが、利用者一人一人が望む生活支援に近づいている気がします。まだまだ課題はありますが、スタッフ、また利用者の皆さんと支え合いながら、「後ノ入」の可能性を広げていきたいと思ひます。

小規模多機能型居宅介護事業所あすなろ

テーマ ～住み慣れた郷でゆとりある安らく暮らしをチームでサポート～

運営体制

運営主体	社会福祉法人 新里紫桐会	利用料	宿泊費	800円 (10月～3月は1,000円)
併設事業所			食費	朝食 300円 昼・夕食 500円
登録定員	25名		おむつ代	実費(持ち込み可)
通いサービス定員	15名	人員配置の状況	その他	日常生活で必要となるものを必要に応じ徴収
泊りサービス定員	6名		管理者	1名
			計画作成担当者	1名 管理者兼務
			看護師	1名
			介護職員	12名
			その他職員	

地域の紹介

本州最東端の街、宮古市中心部から約15kmほど西に位置し、山の緑と清流の流れる郷新里村茂市区。(2005年に宮古市、旧田老町と合併し宮古市となる)その茂市区の住宅地の中に小規模多機能型居宅介護事業所あすなろがあります。山間の集落であり、寒暖の差が激しく秋になると見事な紅葉をみる事ができます。また、遠野の流れを汲む茂市鹿子踊り等の郷土芸能が脈々と伝承されています。

旧新里村はかつて、炭焼きや林業で栄えた“やんもうど”(山の人という意)の郷と呼ばれていました。しかし時代の変化とともに、林業は衰退し若い郷の担い手達も都市部へと流出。現在では新里地区全体で人口は4千人を下回り、その3割以上が高齢者という過疎の地域となっています。



事業所のプロフィール

あすなろは、社会福祉法人紫桐会が旧JA宮古茂市支所を単独型の小規模多機能型居宅介護事業所として改修し、平成20年3月に開所しました。

基本理念に「利用者のために」「地域のために」「チームあすなろ」を掲げ、利用者様方のニーズに合った対応

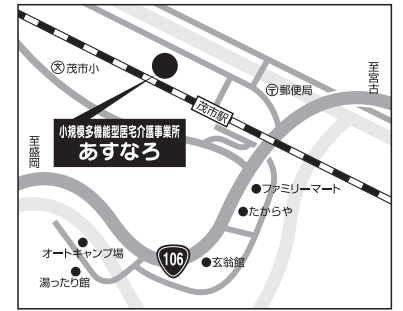


応を心掛けています。また事業所は茂市区の住宅地に隣接しており、地域の一員として連携を図りながら地域福祉の向上に努めています。

事業所内は、どこからでもリビングや6床ある居室全体を見渡せる造りとなっており、利用者様が安心・安全に過ごせる環境となっています。また事業所パソコンからのメール配信や申し送りノートの活用により、急なサービスの変更や連絡等に穴が出ることがない様職員間の連絡体制を密にしています。



所在地 〒028-2101
岩手県宮古市茂市第3地割128番地8
TEL 0193-72-2020
FAX 0193-72-2021
URL
E-mail asunaro@hyper.ocn.ne.jp



テーマ別取組み状況「通い」について

あすなろでは、多機能ケアの特徴の一つでもあるご家族や利用者様の状態や希望に合わせた「柔軟な対応」ができる様、日々努めています。ご家族が仕事で早く出なければならない、または帰りが遅くなる、ご本人が今日は予定ではないがあすなろに行きたいなど、様々な希望に対応しています。また、急な変更以外にも利用者様方の状態の変化に合わせた時間や利用日数の変更も考えます。独居で今まで日常生活に支障がなかった方の認知症が進行し、火の始末が出来なくなり自宅では火災を起こす危険があるため、1日おきの通い利用を毎日夕食後までの利用にして、あすなろでの炊事を手伝ってもらい自宅での炊事を無くするなど、利用者様・御家族が安全かつ安心して住宅生活が継続する



利用者&地域の声

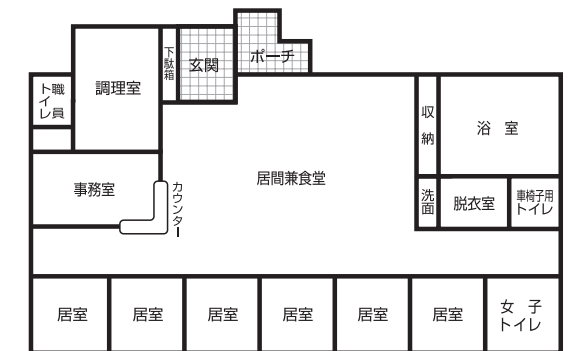
利用者様方から話を伺うと、無理なお願いも聞いてもらい早く対応してくれるので大変助かっていますという声が多く聞かれました。今まで利用されていたサービスと比べ、要望に対し柔軟にそして迅速に対応できることがメリットになっています。また地域の方からは「いい雰囲気自分が世話が必要になったらここがいい。」と話して下さる方もおり、食材やお花などの差し入れをいただいたりと地域の方々にもあすなろが浸透してきているのを感じます。

ことができる様努めています。

毎月の通いの中で取り組んでいる行事としては、誕生日はもちろん地域特有の団子作りで利用者様方に腕を振ってもらったり、暖かい時にはドライブをしたり、地域との交流も兼ねて学区民運動会や夏祭りに参加したりと、様々な行事で楽しんでいます。

食事については、食事形態の工夫はもちろん郷土色も大切に、あずきばっとうやひつつみ汁等この地域ならではの料理を提供し楽しんでおります。また日頃から人気があり所内の憩いの場になっているものがコタツです。夏でも下ズボンが欠かせない方も多く、コタツへ皆様が自然と集まり昼寝をしたりテレビを見たり会話に花を咲かせたりと、ご利用者様の中での交流スペース兼休憩所として機能しています。

施設の平面図



職員の声

～ある職員から～

今まで施設等で勤務をしてきましたが、一日の流れが固定されており、その枠の中で利用者(入所者)が生活をしなくてはならない事に疑問を感じながら勤務していました。今回あすなろに勤務して、要望に応え突然のサービス変更に対応するなど、利用者様の在宅生活を支援するためにひとり一人にしっかりと向き合い関わってケアする事にやり甲斐を感じています。

小規模多機能型居宅介護にこトピア浄法寺

テーマ ～「今ひとたび、また」輝きのある暮らし～

運営体制

運営主体	株式会社サンメディックス	利用料	宿泊費	3,500円
併設事業所	グループホームにこトピア浄法寺		食費	500円
登録定員	24名		おむつ代	テープタイプ 80円 尿取りパット 20円 パンツタイプ 100円
通いサービス定員	12名	人員配置の状況	その他	
泊りサービス定員	5名		管理者	1名
			計画作成担当者	1名
			看護師	1名
			介護職員	8名
		その他職員	管理者兼計画作成担当	

地域の紹介

にこトピア浄法寺は、県内陸部の北端に位置する二戸市にあります。二戸市は平成18年、二戸市と浄法寺町が合併し、人口31,000人の新二戸市が誕生しました。

北上山地、奥羽山脈からなる山地、丘陵地が約9割を占め、自然に恵まれた地域です。葉タバコ生産量が盛んで、周囲にはタバコ畑が広がります。その他、雑穀の生産や浄法寺漆塗り、天台寺が特に有名です。天台寺では年に数回、瀬戸内寂聴さんの法話があり、全国から多くの方が法話に耳を傾けに天台寺へ訪れます。

稲庭岳では風力発電の風車3機が、風を受け大きな翼を広げています。そのふもとには稲庭岳から湧き出る名水「岩誦坊の水」。私達は、活力ある・心安らくこの二戸市に、「心」のサービスを目指し暮らしています。



事業所のプロフィール

にこトピア浄法寺は、廃校になった旧太田小学校の跡地に地域の福祉の拠点として、平成18年5月に開所致しました。廃校跡地である為、校庭には幾本もの桜の花々が春に咲きほころび、又校庭には六面のゲートボールのコートが設けられ、老人クラブの方々の活力



ある活動場所として利用されています。

株式会社サンメディックにはシルバーグループに属し、「今ひとたび、また」という経営理念のもとに、医療を通じた「生命力」の向上と介護を通じた「生活力」の向上にホスピタリティを持って貢献することを使命としています。

思い出あふれる校舎で地域の皆で支え合える環境を目指し、利用者様一人ひとりが「今ひとたび、また」と輝くことが出来るようおもてなしする事業所です。



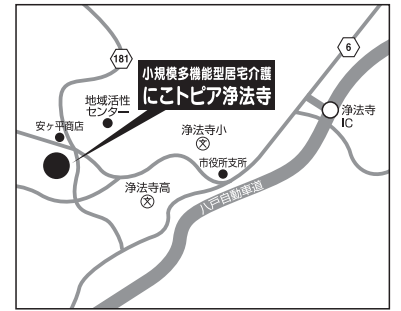
所在地 〒028-6911
岩手県二戸市浄法寺町上前田34

TEL 0195-39-1313

FAX 0195-39-1616

URL

E-mail nikotto-j@jupiter.ocn.ne.jp



テーマ別取組み状況「通い」について

にこトピア浄法寺の「通い」サービスは、在宅生活を支援し継続可能となるよう、パワーリハビリマシン4台とホットパック・ウオーターベットマッサージ機を完備し、機能訓練の充実を図っています。又、利用者様の社会参加と生きがいのある生活作りを目的とし、利用者様の希望を取り入れた充実した行事内容を毎日行なっています。

私達の「今ひとたび、また」という理念のもとに、利用者様の輝きを日々追求して行くという事に職員全員が努めています。

個々の人生の積み重ねの中に今が在るという事を認識し、利用者様へ家庭のような、家族のようなサービスを目指しています。それは、毎日の会話の中の一



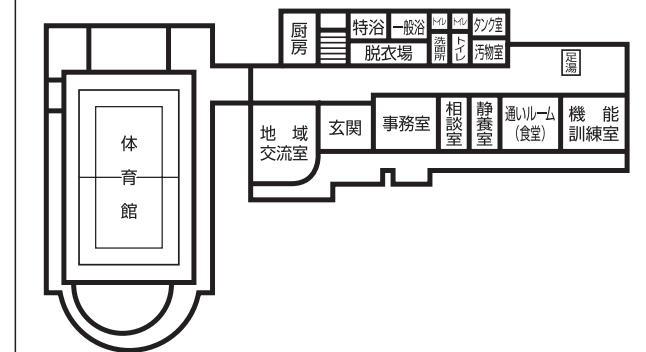
利用者&地域の声

小規模多機能型居宅介護にこトピア浄法寺を利用するようになり5ヶ月が経ちました。以前は家からでたがらなかった義母も、車を見ると嬉しそうに外出し、帰りは笑顔で戻って来ます。農家な為、農繁期には朝早くから夜遅くまで家に戻れないことも多々あり、農業と介護の両立は難しく感じていました。今では、忙しい日には泊まりを利用したり通いを利用したりと家族全員がゆとりのある生活を送ることができています。

であったり、一瞬の表情に表われたりする想いの「気づき」が必要となります。利用者様個々の希望・想いに限りなく添った対応が出来るよう、そして「心」が穏やかで暮らせるようにと「にこトピア浄法寺」は時間を積み重ねる毎日です。

一人一人が暮らしの中でさまざまな想いをもち暮らしています。その中で、嬉しい時は皆で倍に喜び、悲しい時は少しでも支えとなれるよう、又、不満もぶつけてもらえるような、家族の次に一番の存在になりたいと考えます。精神的に穏やかであること。その為に自分の居場所がここにあること・温かな時間を送れる環境があることは大切だと思います。私達の取り組みは、自分を素のまま利用者様に知ってもらうことから始まります。互いが頼って頼られて……共に想いを感じられ、家族のような関係になる事が目標です。

施設の平面図



職員の声

「小規模多機能」という利用者様に密着した質の高いサービスは、サービスを提供する私達にとって、一番「想い」を共有する日々の積み重ねが喜びであります。人と人を結ぶのは「心」だと、この仕事に関わるにつれ強く感じられるようになりました。「通い」「訪問」「泊り」と、多種多様な関わりの中で私達は家庭的な安らぎと家族のような温かさで「心」をつなげて行きたいと日々感じる毎日です。

小規模多機能型居宅介護事業所長寿庵

テーマ ～住み慣れた郷で、「安心できる私の暮らし」をつくる。～

運営体制

運営主体	社会福祉法人とおの松寿会	利用料	宿泊費	1,000円
併設事業所	グループホーム長寿庵		食費	朝 300円 昼 300円 夜 350円
登録定員	25名		おむつ代	実費徴収
通いサービス定員	15名		その他	宿泊時の光熱費360円
泊りサービス定員	9名	人員配置の状況	管理者	1名 常勤
			計画作成担当者	1名 常勤(管理者兼務)
			看護師	2名 常勤(グループホーム兼務)
			介護職員	16名 常勤(グループホーム兼務)
			その他職員	1名 常勤(事務員)

地域の紹介

遠野市は、岩手県のほぼ南東部に位置し、北上高地の中央部の盆地にあります。人口は、平成20年8月31日現在、31,224人で高齢化率32.9%となり高齢化の進展、人口の流出が進み、中心市街地の空洞化が進んでいます。気候は、8月には高温を記録し、冬には零下15度を記録するなど寒暖の差が激しく、気温の日較差・年較差が大きいです。降水量は、県内の他の地域と比較して見ると、夏はやや多いほうですが、冬の積雪は少ない方です。

市内の介護サービスを提供する事業所数は、通所介護9ヶ所、通所リハビリ2ヶ所、短期入所生活介護2ヶ所(計30床)、短期入所療養介護2ヶ所。また、長期の入所施設は、特別養護老人ホーム2ヶ所、介護老人保健施設2ヶ所があります。



事業所のプロフィール

元建設会社事務所を改修し、平成19年5月に、遠野市で初めてとなる小規模多機能型居宅介護事業所として開所しました。建物は2階建てで、1階が小規模多機能、2階には認知症対応のグループホームを併設しています。

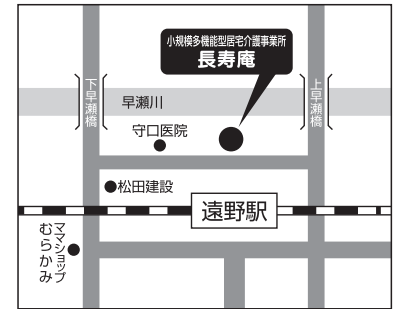


法人としては、特別養護老人ホーム遠野長寿庵の郷(長期100床・短期20床)、養護老人ホーム長寿の森吉祥園(長期50床)に続く、3つ目の大きな事業展開となりました。

従来のサービスだけでは、充分に応えられなかった部分を支援できるように、ご本人及びご家族の方々の声を聴きながら、「馴染みの関係づくり」を心がけ、柔軟に介護のニーズに対応できるようスタッフ一同で日々、取り組んでいます。



所在地 〒028-0521
岩手県遠野市材木町2番22号
TEL 0198-63-1328
FAX 0198-63-1338
URL <http://www.t-chouju.jp>
E-mail ankanris@t-chouju.jp



テーマ別取組み状況「泊り」について

泊り利用者の中には、虐待による保護的な理由のケースや独居になり介護者不在のため次の受け入れ先が決まるまで長期的に泊り利用されている例もありますが、泊りを利用される多くの方の利用理由は、介護者の仕事の都合(残業及び出張)や病院受診等を含めた介護者の体調に関するものが多く占めています。その他としては、悪天候のために泊まる方などもあり、突発的な出来事への対応もしています。

事例①：要介護5の女性。自宅でひとり暮らし、徐々に全介助の状態になる。本人は自宅から離れ、施設への入所を強く拒否。2人の娘さんは、車で片道1時間以上かかる地域に住むが、訪問介護サービスの身体介護と組み合わせて交替で自宅に寝泊りの介護していた。



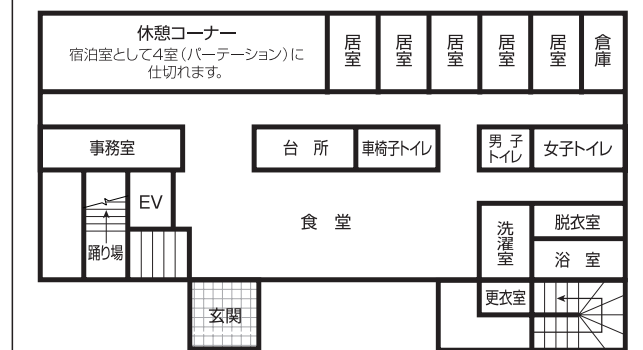
利用者&地域の声

毎日、認知症のため調子の良いとき、悪いときと気分の変化が大きく大変ですが、何時も暖かくお世話をしていただき感謝しております。毎日の変化にいろいろ気を配っていただき、その都度、安心して通いや宿泊を利用しております。本人の事のほか家族に対して、職員の方々がいろいろ感じておられることがいっぱいあると思います。遠慮なくその都度、指導・助言下さることを期待しております。

しかし、娘さんらの負担増し、本人と家族との話し合いの結果、小規模多機能サービスを利用開始となる。開始後のサービスは、4～5日長寿庵に泊り、自宅に2～3日戻る。自宅に戻った日には、7時～13時～20時におむつ交換で長寿庵のスタッフが訪問。現在、2人の娘さんの都合に合わせて、泊りと訪問サービスを調整している。現在も長期での施設入所することなく自宅で過ごす時間を作り在宅を継続しています。

小規模多機能事業所においてスムーズに泊りを受け入れ、柔軟な対応ができるのは、スタッフが、日頃から利用されている方の様子を訪問や通い利用を通して観察することができるからこそ可能だと思います。

施設の平面図



職員の声

認知症の方の日々変化する行動に、どう関わればいいのか悩むことがあります。小規模多機能サービスでは、通いの時間だけでなく、泊り・訪問を通して、生活全体の把握が可能です。生活の様子が把握できるとその方の姿をイメージしやすくなります。私は、利用者との関わりの中で見せてくれる笑顔がとても嬉しく励みになります。簡単には利用者を理解することは難しいですが、これからもあの笑顔を励みに取り組んでいきたいです。

交流ステーション友愛園

テーマ 理念「利用者の願い、希望を尊重し、家庭的な雰囲気の中で自立した生きがいのある生活ができるよう支援します」

運営体制

運営主体	社会福祉法人 友愛会	利用料	宿泊費	一泊 3,000円
併設事業所			食費	一食 460円
登録定員	25名		おむつ代	
通いサービス定員	15名	人員配置の状況	その他	
泊りサービス定員	5名		管理者	1名 計画作成担当者兼務
			計画作成担当者	名
			看護師	2名
			介護職員	6名
		その他職員	1名	<small>(総括部長：管理者を補佐し事業が円滑に進むよう総括)</small>

地域の紹介

交流ステーション友愛園のある金ヶ崎町は、県南内陸部に位置し、南は奥州市、北は北上市に接した農業と工業の調和がとれた人口16,510人の町です。

農業は稲作と酪農を中心に、工業は岩手中部工業団地にトヨタ自動車組立完成車工場「関東自動車工業岩手工場」や「富士通岩手工場」、「シオノギ製菓金ヶ崎工場」等々が操業しています。

当事業所がある地区は、JR東北本線、旧国道4号線沿いの街地区（10自治会）で人口3,015人の旧商店街等の住宅密集地域です。

地区内には、文部科学省選定の城内諏訪小路重要伝統的建造物群保存地区（伝建群）があり仙台伊達藩大町家上級家臣の伊東家侍住宅等閑静な江戸風情が残されています。



事業所のプロフィール

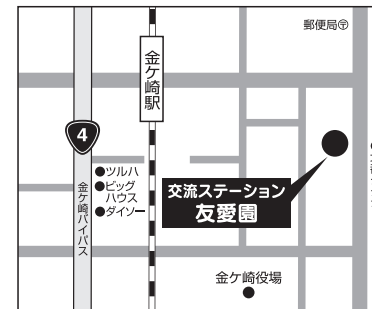
交流ステーション友愛園は、地元の旧個人医院を当法人友愛会が譲渡を受け改修し、平成16年9月から町の生きがい事業を受け、介護保険給付対象外の通所サービスを実施していましたが、平成18年4月の介護保険制度改正に伴い、小規模多機能型居宅介護事業所の指



定を受け現在に至っています。事業所の1階は通所スペースで、食堂ホール、男女別浴室、カラオケ室等があり、利用者が思い思いにくつろげるよう、家庭的な雰囲気を大切にしています。2階は宿泊スペースとなっており、宿泊室は個室5、2人室1で全室にトイレ、エアコン、ベッド、テレビ、流し台、収納家具等備えております。私達は、利用者が可能な限り地域の中で在宅生活が継続できるよう、支援していきたいと考えています。



所在地 〒029-4503
岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根矢来5番地
TEL 0197-42-2888
FAX 0197-42-2888
URL
E-mail



テーマ別取組み状況「泊り」について

開設して3年目。手さぐりで取り組んできた小規模多機能型居宅介護。

初めての泊りは、利用者1人対職員1人でした。一緒に食事の準備、テーブル拭き、食後の後片付け、食器を洗ったりする。2階へ移動し、いつも自宅で寝ている向きにベッドメイキング。時間は、ゆっくりと流れていきました。

ある日の夜、隣りで横になっている職員のことを娘だと思い、布団を開け「こいこい」と母の顔をしている認知症の利用者がいました。時には娘になり寄り添ってみたりと、利用者の気持ちが伝わったことがありました。職員と利用者の信頼関係もできたように思います。



利用者&地域の声

ご家族、運営推進委員、職員間の交流を図るため開催した懇談会で、ご家族より出された「声」を紹介致します。息子：父は利用し始めて1ヶ月ですが、孫が「おじいちゃん少し明るくなった」と話している。嫁：母は歩けなかったが通所するようになってから歩けるようになった。息子：急な宿泊にも対応してもらえるので助かる。その他、介護者リフレッシュのため、月に1回グループ宿泊を設けてはどうか等の貴重なご意見を頂きました。

利用者同士も顔見知りになると、「一緒に泊りたい」との声もありました。泊りの日をステーションで設定し、家族にも御理解いただきました。家族も外出等の予定を入れることができ、良かったと好評でした。

今後も、泊りの企画を立て、家族の方にもリフレッシュする時間を作っていけるよう考えています。

さまざまな状況で介護の負担が大きくなっている家族にとって、急な泊りの受け入れもできる小規模多機能型居宅介護、交流ステーション友愛園は心強い味方ではないかと思えます。

最近、交流ステーション友愛園前を待ち合わせ場所に訪れる方が増えてきました。地域の方々にもっと知っていただけるよう、努力していきたいと思えます。

施設の平面図



職員の声

私達は日々、目配り、気配り、心配りを心がけています。利用者一人ひとりの生活環境、身体状況を把握し、本人、家族の声に耳を傾け、安心出来る生活が送れるよう、小規模多機能サービスを生かした支援に取り組んでいます。お世話しているのではなく、お世話させて頂いている喜びを感じ、笑顔の対応、寄り添い、向き合う事が、特に認知症のお年寄りの心の声を聞く事で、より深い心のケアが出来るのだと思えます。

多機能ホーム さんりく

テーマ ～のんびりとゆったりと～

運営体制

運営主体	社会福祉法人 三陸福祉会	利用料	宿泊費	1,000円
併設事業所	認知症高齢者 グループホーム さんりく		食費	朝食 250円 昼食 300円 夕食 350円 (900円)
登録定員	25名		おむつ代	実費
通いサービス定員	15名		その他	高熱水費 500円
泊りサービス定員	9名	人員配置の状況	管理者	1名
			計画作成担当者	1名 グループホームと兼務
			看護師	1名 グループホームと兼務
			介護職員	8名 グループホームと兼務
			その他職員	

地域の紹介

大船渡市三陸町は、県内で最も温暖で、海と山が入り組んだ典型的なリアス式海岸を有し、風光明媚で資源豊かな恵まれた自然環境のもと、漁業を中心に発展してきた町である。

当事業所は三陸町中央越喜来地区の市街地のご真ん中に、社会福祉法人三陸福祉会が経営する特養ホームさんりくの園を中心に介護サービス施設があり、既存のグループホームに併設されている。施設の周辺は住宅街、商店街、公共施設等の社会資源に恵まれ、利用者は、買い物や散歩、隣の保育園・幼稚園児との交流、また地域の行事への参加等地域住民との交流は日常的に行われ、地域密着型としてふさわしい環境にある。



事業所のプロフィール

当事業所は、社会福祉法人三陸福祉会が運営する、既存のグループホームに併設して平成20年4月1日より運営を行っている。当施設は、木造平屋建310.81㎡であり、グループホームと連動した自火報装置・スプリンクラー等の設置の他、地域住民との災害時の協力



体制の確立など防災体制に万全を期している。宿泊室は洋室7・和室3の9室を設け、特に入浴に重点を置き、浴室は桧風呂で浴槽は広く機械浴も同時に行う事が出来空間も広く、ゆっくり寛げる様演出している。職員も常勤8名、看護師1名を配置し、グループホーム職員9名共に兼務発令をし、互いに職員が交流できる体制を取っている。



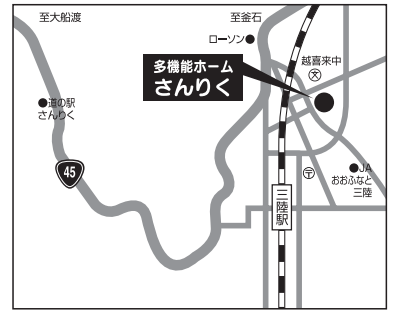
所在地 〒022-0101
岩手県大船渡市三陸町越喜来字所通25-7

TEL 0192-44-1717

FAX 0192-44-3660

URL

E-mail



テーマ別取組み状況「泊り」について

開設当所よりS氏は毎日通い利用後泊り、何日間かのみ夕方帰宅し泊り次の朝には多機能を利用されておりましたが、家族の強固な希望あり5月中旬より帰宅願望の一人倍強い方が、家に帰る事も過ごす事もなく長期泊りとなってしまいました。認知症もあり日中より帰宅願望が多くきかれる方なので、泊りの際も夕方や夜間も不穏状態が多く、その場合傾聴や寄り添う気持ちを持って対応するよう心掛けました。TVが好きで入眠する際にもTVを見ながら寝る習慣もあり、家族にTVを持参して頂き居室に設置し対応してみました。時に眠れない様子あり居室より和室やホールのソファ、側に職員がいると安心して眠る事もあり、落ち着いて安眠できる環境作りや配慮が不可欠だと思います。居室は障子なので朝陽の明るさで早くから目を覚まし起きて来るとい事がみられた為、S氏の居室にカーテンを使用した所、朝陽で目が覚めるという事は大分減って効果は得られています。就寝時刻も本人の精神状態やペースに合わせて休んで頂くように、少人数の泊りだからできる事もあったと思います。S氏は8月の中旬他施設へ入所されて行きました。

今現在は、「泊り」が1名という日が多く土曜日だけ泊りという方は2名で、2名はとても仲良く泊りの際も和室で2人で休まれ眠った頃に襖を閉めて対応して

います。「泊り」1名だどの方でも淋しさを感じており、自宅ではどのように夜を過ごされているのかを知り得た上で、安心して泊って頂けるよう環境作りや工夫を個々に合わせ努めるようにしています。

施設の平面図



利用者&地域の声

男性利用者より、話ができる男性利用者が利用される事を希望、又、送迎各30分要し悪路で乗っているだけで疲れる為、もう少し近くだと良い…との話がある。利用者H氏家族より、もう少し遅い時刻に送って来て欲しいと希望があるがH氏は具合が悪くなるから早めに帰りたいと訴えられている。(H氏はほぼ毎日利用されている。) K氏家族からはここを利用してから表情が良くなってきた。との話がきかれている。

職員の声

利用者とその家族のニーズに食い違いがあり、本人の意志が尊重されず対応の難しさを感じる。地域柄送迎時間を要し勤務時間内で出来兼ねている。食事面でも手作りできない状況となる時もあったり、通いの方が帰られた後の泊りの方の余暇時間の過ごし方をどのようにしたら良いか…等。地域の方々に事業所がどのようなものか周知される事で地域からも必要とされ、利用者や家族からも満足できる事業所となる事が望まれると思います。

小規模多機能センターやすらぎ

テーマ ~今日も何にもなくて良かったネと安心していただけるケアを目指して~

運営体制

運営主体	社会福祉法人 親和会	利用料	宿泊費	1,500円
併設事業所			食費	朝食 400円 昼・夕 400円
登録定員	25名		おむつ代	実費
通いサービス定員	15名	人員配置の状況	その他	
泊りサービス定員	6名		管理者	1名 兼務
			計画作成担当者	1名
			看護師	1名
			介護職員	6名
		その他職員	1名	パート

地域の紹介

山田町は陸中海岸のほぼ中央に位置し、太平洋に面しており、東部・東南部は典型的なリアス式海岸で、波静かな山田湾と船越湾を擁しています。

豊かな海に面した土地柄ということもあり、水産業が盛んで、四季折々を感じる様々な味覚に満ち溢れています。

当事業所が在る船越半島は、国立公園の指定を受けた陸中海岸の中央に位置し、壁岩・磯・赤松などの海岸性原生自然景観に優れ、また海流や北上高地の良い影響から、暖冬涼夏の過ごしやすい気候です。

また地域の輪、連携力が強く、互いに助け合い生活していける環境が整っており、高齢者や障がい者の方も安心して暮らせる地域福祉も充実した環境となっています。



事業所のプロフィール

小規模多機能センターやすらぎは、「地域でその人らしく最後まで」をテーマに、親和会が目指す『地域の福祉サービスの総合的な向上・発展』の一役を担うものとして、知的障がい者更生施設はまなす学園、児童福祉施設わかき保育園、障がい者日中一時支援事業



に次ぐ福祉サービスとして開設されました。当事業所では「地域でその人らしく最後まで」を支えることができるよう、「通い」「泊り」「自宅への訪問」「長期の泊り」「マネジメント」の5つの機能を一体的に運営し、中重度となっても在宅での生活が継続できるように介護します。また介護事業所としてだけでなく、利用者の方々や地域の方々に2番目の自宅と思って気軽に利用・訪問して頂ける様な「地域の交流の場」としても運営できるよう目指しています。



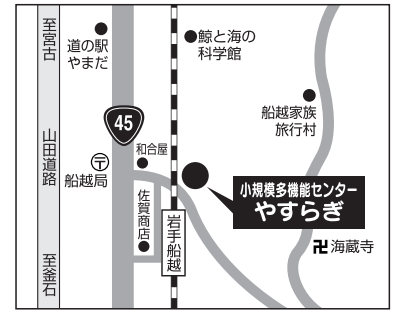
所在地 〒028-1371
岩手県下閉伊郡山田町船越6-15-2

TEL 0193-84-4438

FAX 0193-84-4438

URL

E-mail yasuragi@angel.ocn.ne.jp



テーマ別取組み状況「泊り」について

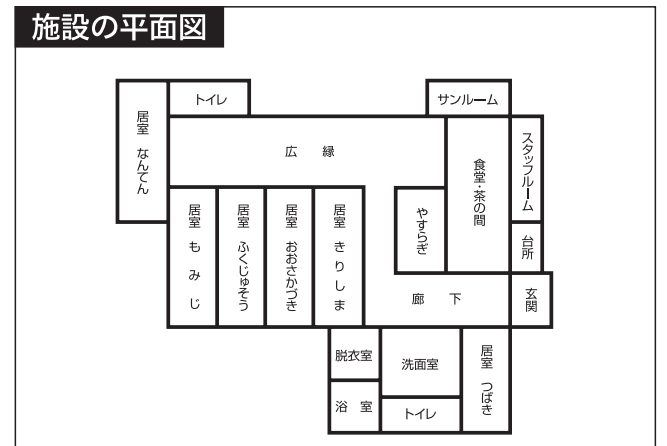
当施設の“泊り”は開設当初から満室状態である。老人保健施設などで受け入れられない方の需要が大きく在宅介護が困難という方が多い。病院から退院を迫られ、在宅では介護困難という方、退院はしたが、介護放棄により虐待が予想され緊急で受け入れた方、認知症の進行により、通所だけでは対応できない方など、当施設で受け入れなければ問題が生じてしまうようなケースばかりである。そんな中でも、家族と相談しながら、小規模の機能について理解していただき、協力をお願いしながら在宅でも介護していただける様、取り組んでいる。寝たきりで重度の認知症、経腸栄養を受けているAさんは退院許可が出たが、介護者である娘さんは職場まで1時間以上もかかり、従来の介護



利用者&地域の声

通所を始めて早六ヶ月たちました。週一回の私の通所日の楽しい事、待ち遠しい事…。年老いているからと家に閉じこもっているよりはと思い、通所を決めました。通って来ている皆さんの、若かった頃の話や戦争中の苦労話、そして家族の暖かな話を聞いていると家族っていいもんですね。又、職員の皆さんの心優しい対応に感謝しております。“来るたびにニコニコ迎える職員の顔がやすらぐ心なごむ嬉しさありがとうございます”

サービスでは対応が困難という状態での相談であった。腹部動脈瘤と褥そうもあり、他の施設への入所も出来ず、切羽詰った状況での利用であった。主治医とも相談の上、訪問診療も受けながら、自宅介護へ向けて検討していくことで受け入れをした。4ヶ月経過した中で1週間の外泊が出来た。病院で寝たきりだったAさんであるが、褥そうの治療状況も良好で、車椅子上で過ごす時間も出てきている。何よりも笑顔や発語が増え、口腔からの摂取も増えてきている。理想的な泊まりの形態とはいえないが小規模だからこそ、提供できたケアと自負している。来月は2度目の外泊の予定もあり、少しずつ在宅へつなげたいと思っている。理想的な取り組みとはいえないが、少しでも利用者、家族のニーズに対応し、支援していきたいと思っている。



職員の声

ヘルパーの資格をとり、今年の4月から初めて介護の現場で働いている。制度のことや認知症のケアなど学ぶことがたくさんあり、毎日があっという間に過ぎていく中で、利用者様を笑顔で迎え、「またくるね。」という言葉に支えられ、もっともっと知識や技術を磨いて、安心して利用していただけるように努力している。介護の仕事を通じて、心から優しい気持ちになれる自分に誇りを持ち、この仕事にめぐり合えて感謝している。

かのん小規模多機能センター

テーマ ～地域の中で自分らしく生活できるよう「いきたい」を支援します～

運営体制

運営主体	有限会社ライフネットワーク	利用料	宿泊費	750円
併設事業所	通所介護事業、居宅介護支援事業		食費	朝食 300円 昼・夕 500円
登録定員	25名		おむつ代	なし
通いサービス定員	15名		その他	レク材料代その都度
泊りサービス定員	8名	人員配置の状況	管理者	1名 兼務
			計画作成担当者	
			看護師	1名
			介護職員	9名
			その他職員	1名 事務兼介護 2名 調理兼介護

地域の紹介

当事業所は、商業地の中にあり、比較的新しい地区で市内中心部より南東に位置しております。住宅は100世帯あり、まだ町内会がなく隣接する上村地区の町内会長さんやその他役員の方々に御協力を頂き、交流を図っております。事業所の隣には、協力歯科医療機関があり、300m先には協力医療機関があり体調不良時には、すぐに受診できる環境にあります。教育機関として短期大学、中学校、小学校、保育園があり体験学習の受け入れや園児との交流があります。立地条件には、恵まれておりますが、近所に住んでいる利用者が歩いて利用しているという小規模多機能型居宅介護のイメージではなく、市内全域から利用されている状況にあります。



事業所のプロフィール

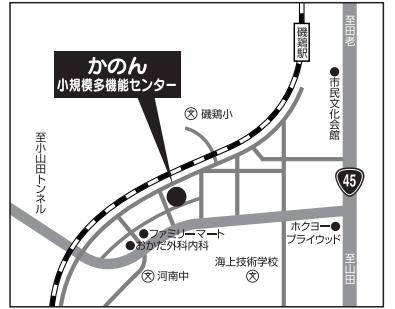
平成17年4月に現在併設している居宅介護支援事業と通所介護事業を小規模多機能型居宅介護事業を見据えて開設し、個別援助を大切に、気づきやすいサービスを心掛け運営して参りました。平成18年12月に小規模多機能型居宅介護事業の指定を受け、「地域の中



で生きていく。」ことの大切さ、新しい制度を成功させようと使命感を持ち、日々奮闘しております。認知症の方でも在宅生活を継続支援しておりますが、認知症を予防しながら支援することも重要であることを考え、平成20年9月より、学習療法を取り入れ、家族や利用者の方々の希望でもある現状のまま生活したいとの強い気持ちを感じ、利用者、家族の方々の心が豊かになり地域で生活できるよう努力しております。



所在地 〒027-0025
岩手県宮古市実田一丁目7番28号
TEL 0193-65-1417
FAX 0193-65-1410
URL
E-mail kanonlifefenetwork@earth.ocn.ne.jp



テーマ別取組み状況「泊り」について

平成18年12月の開所時、19名の登録があり、泊り定員7名でスタートしました。当初、このサービスのメリットとして注目されました「泊り」であり、問い合わせでも「住まい」と誤解されるケースもありました。利用者家族からの「できるだけ泊らせて欲しい。」との要望も多く、登録人数も少なかったこともあり、今困っている状況を解決したいとなるべくアセスメントした上で要望に添えるようにと泊りに対応することも多かった実情がありました。泊りの利用は常に6～7人とほぼ満室の状態が半年ほど続き、平成19年4月に泊り定員を7名から8名に追加変更し対応して参りました。泊りに対応することで利用者向き合って24時間対応すると、通いでは気づかないようなことも見え、信頼



利用者&地域の声

家族のことも、ほとんどわからなくなった母は「家に帰る」が口癖です。イライラして否定的なことを言うこともしばしばです。こんな日々を、かのんさんを利用することで精神的にとでも救われています。

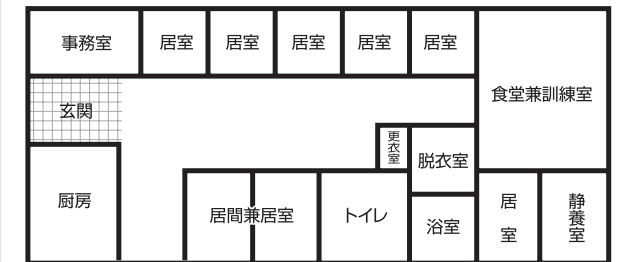
職員の方は、動作の鈍い母に、いつも笑顔で辛抱よく接して下さり頭の下がる思いです。

先日、かのんさんの広報で満面の笑みの母を見て家族で喜んでいました。利用してほんとはよかったですと感謝しています。

関係も早く築くことができますが、在宅生活を支えるという小規模多機能型居宅介護の本来の主旨から反れてしまうことになり、できるだけこの制度を家族、利用者の方々に御理解して頂き、余裕を持ちながら利用を勧め、急な泊りの要望に対応できるようになりました。また、退院後に於いても、体調が整うまで泊りを継続し、生活リハビリで支援することで在宅復帰がスムーズに移行できております。

泊りのメリットを有効に活用できるよう、家族、利用者の諸事情を十分に把握しながら、必要な泊りサービスを提供し、通いサービスが中心となるように位置付け、対応していきたいと考えております。

施設の平面図



職員の声

ある利用者の方が「ここに来るとわが家に来たようだ」と話された事があります。私はその時、小規模多機能という切れ目のない介護サービスが利用者の方と職員を結び温かみのある介護ができるのだと実感しました。

めまぐるしい業務に追われる日々ですが、利用者の方と家族のように関わる事ができ、一緒に笑ったり何かを共感できる時、この仕事をしていて本当に良かったと感じます。

小規模多機能ホームふんどかんど

テーマ ~いつも同じ空の下でくらしたい~

運営体制

運営主体	特定非営利活動法人ともにあゆむ会	利用料	宿泊費	2,000円
併設事業所	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)		食費	朝食 250円 おやつ 150円 昼食 300円 夕 350円
登録定員	25名		おむつ代	実費
通いサービス定員	15名	人員配置の状況	その他	日用品 200円
泊りサービス定員	9名		管理者	1名 施設長兼務
			計画作成担当者	1名 理事長兼務
			看護師	1名 併設事業所兼務
			介護職員	9名
		その他職員	1名 相談員	

地域の紹介

大迫町は人口僅か6,354人、山間部の小さい町です。平成18年の町村合併で花巻市となりましたが、それ以前は稗貫郡であったことは未だ記憶に新しいところです。神の山と仰ぐ『早池峰山』と、その麓に脈々と伝わり、昭和51年に国の重要無形民俗文化財の指定を受けた『早池峰神楽』が有名です。又ぶどう栽培は県内でも有数の生産地であり、現在はワイン専用種を栽培している農家も多く、『エーデルワイン』は国内外で大きな評価を得るまでに成長しました。十年ほど前から始まった『宿場の雛まつり』は、大迫町が宿場町として栄えた当時、京や近江の商人によって町に持ち込まれた雛人形が、今でも旧家に多く残っていて、再び日の目を見ることとなりイベントとして定着しつつあるものです。一見の価値ありです。



事業所のプロフィール

大迫町には、特養、老健、各々事業所の介護施設がありますが、理事長の佐々木には「もっと個人に寄り添った施設を造りたい」という構想がありました。夢が実現したのは平成16年。NPO法人「ともにあゆむ会」を立ち上げ、認知症対応グループホーム「ぶど

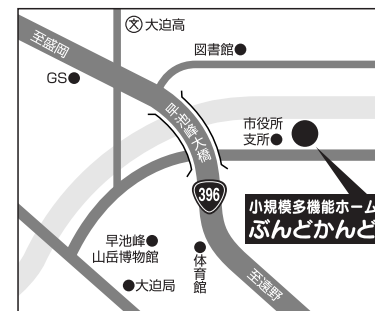


う苑」開所となりました。三年が経過し軌道に乗ったのを見計らい、平成20年4月、2ユニット目のグループホームと、「小規模多機能ホーム、ふんどかんど」を開設しました。「ふんどかんど」は地元の方で「ぶどうのかまど(分家)」の意味です。

開所以来日も浅く、まだまだ手探り状態ではありますが、ホーム内にゆるやかな時間が流れていることは確かです。人生の先輩の利用者の皆さんに色々教えて頂きながら、「ふんどかんど」を造っていきたくです。



所在地 〒028-3203
岩手県花巻市大迫町大迫1-4-55
TEL 0198-36-1023
FAX 0198-36-1030
URL
E-mail



テーマ別取組み状況「訪問」について

ふんどかんどは、開所して間もなく、スタッフ全員が試考錯誤を重ねながらも地域の方々には、「ふんどかんどっていい名前だね。いつ行っても気持ち良くいられるよ。」と声をかけてもらえるようになってきました。特に、利用者さんのお宅を訪問している時には、ご近所の方とのコミュニケーションを大事にしています。小規模多機能というシステムは、訪問→通い→泊まりが一事業所の全スタッフで関わることができます。そのため、その方の生活スタイルや心身の状況などがわかりやすく、自宅でお過ごしの方が急に体調をくずされ「今から来てくれないか？」との電話にも、すべてのスタッフが訪問でき、利用者さんを待たせることのないよう対応するようにしています。また、利用者

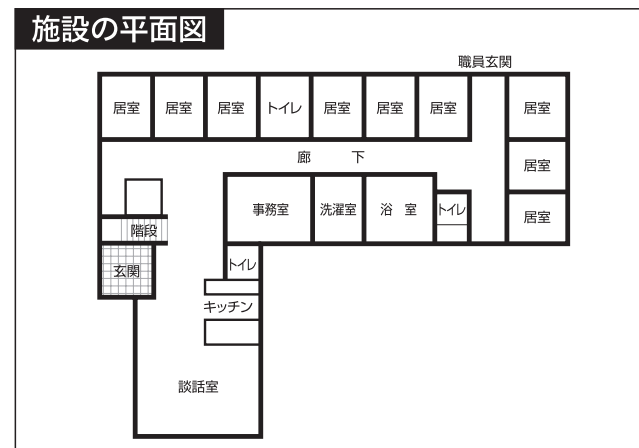


利用者&地域の声

地元の小規模多機能ホームが出来たと聞いて、早速申し込んだところ、頑固者の父が毎日欠かさず通所サービスを利用していると聞いて驚いています。今迄、特養や老健の通所をいくら勤めても利用する気のない父でしたので。父は93歳で歩行が不自由です。息子の私は仕事の関係で離れて暮らしています。このまま「ふんどかんど」に馴染んで、寒くなったなら泊りのサービスに移行してくれることを期待しています。

さんからは、「覚えた人が来るから安心だ。」との声も聞かれています。その他にも、ふんどかんどを通いを利用して入浴を拒否される方でも、通いの送迎時に訪問サービスを合わせ、自宅での入浴へとつなげていくなど、その時の状況に合わせた柔軟な対応を心がけています。

まだまだ未熟な私達ですが、ふんどかんどを利用して下さる方々や地域の方が、住みなれた地域で暮らすことができるよう取り組んでいきたいと思っています。そして、ふんどかんどが、世代を超えた地域の交流スペースとなっていければいいなと思っています。



職員の声

現在私が担当している小規模多機能ホームは、今年の4月に開所されたばかりの新しい施設です。利用者の皆さんも毎日のレク活動や併設のグループホームの皆さんとの交流、月2~3回の行事等ゆったりとした時間の中で生活をされています。今一番思うこと。それは利用者さんと共に色々な事を学び、時には悩み、泣き、笑い、素適なそして貴重な時間を刻んでいると実感していることです。

介護ステーションゆいっこ小規模多機能ホーム

テーマ ～いつまでも自宅で過ごせるよう支援します～

運営体制

運営主体	特定非営利活動法人ゆいっこ	利用料	宿泊費	4月～9月 一泊 1,000円 10月～3月 一泊 1,300円
併設事業所	介護ステーションゆいっこグループホーム		食費	朝食 300円 夕食 400円 昼食・おやつ 500円
登録定員	12名		おむつ代	実費
通いサービス定員	6名	人員配置の状況	その他	
泊りサービス定員	5名		管理者	1名
			計画作成担当者	1名
			看護師	2名
			介護職員	7名
		その他職員	4名	グループホーム職員 主に夜勤を兼務

地域の紹介

当事業所のある西和賀町は、2005年11月1日に旧湯田町と旧沢内村が合併し誕生しました。人口約7,000人、高齢化率約40%と、超過疎地域です。県内でも有数の豪雪地帯であり、冬期間の除雪が高齢者の負担となっている為、除雪ボランティア『スノーバスターズ』があります。

町は奥羽山脈に囲まれ、東西約20km、南北50kmあり、当施設のある西和賀町新町地区はそのほぼ中央に存在します。

新町地区は、町の主要道である県道1号線沿いを中心に集落が形成されています。毎年8月16日には送り盆の行事として、大小の舟と山車が地域を練り歩く『舟っこ流し』が開催されます。



事業所のプロフィール

平成19年4月より、グループホーム1ユニットと、小規模多機能ホームの2事業所を開設致しました。町内全域がサービス提供範囲で、小規模の登録定員は12名、通いの定員6名、宿泊の定員5名で、現在の登録人数は6名です。1日の通いの利用者の平均が約3名



と少ない為、入浴・塗り絵・畑仕事・ひなたぼっこ・体操等を日課とし、ゆっくりと過ごしております。

当施設の周りには、保育所・診療所・小学校等があり、保育所・小学校とは、運動会に参加したり、慰問等を行っていただいたりし、交流を図っております。また、地域の方々とは、盆踊りを披露していただいたり、農作物を頂いたり、当事業所にて民謡等の慰問を開催する際に地域の方々をお招きしたりし、交流を図っております。



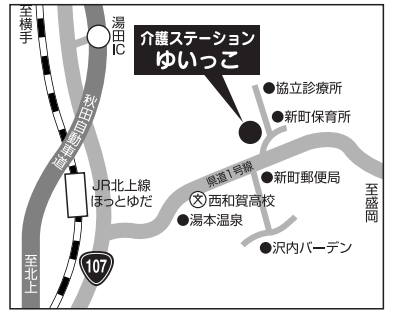
所在地 〒029-5611
岩手県和賀郡西和賀町沢内字新町4地割32-1

TEL 0197-85-3105

FAX 0197-85-3107

URL <http://www.yuikko.net/yuikko/index.html>

E-mail yuikko@sand.ocn.ne.jp



テーマ別取組み状況「訪問」について

Kさん(女性・70才)は、アルツハイマー性認知症と慢性頭痛がある1人暮らしの方です。近所に嫁いだ娘さんが時々様子を伺いに自宅に来ていますが、頭痛が頻繁にあった事から、昨年10月に主治医より、お話し好きな本人の性格も考え、他者との交流や見守りの介護を勧められた事がきっかけで、当施設に申し込みがありました。

昨年11月より、週2回の通いの利用を開始しました。しかし、自宅にて家庭用配置薬の頭痛薬を、1日に1箱全部服薬してしまう事や、医師から処方された毎食後の薬を自力で服薬しても、その事を忘れて何度も服薬してしまう事が見られました。

その為、訪問サービスを週4回、1日2回利用する事



利用者&地域の声

我が家のおばあさんは91歳です。膝痛の為車椅子の生活ですが、記憶力は若者顔負けの抜群さです。週5日元気はつらつと『ゆいっこ』に通っています。「人数が少なく疲れない。お昼のご馳走も良い。誕生会にケーキが食べられるのでうれしい。話っこしたり札っこ(トランプ)で遊ぶのも楽しい」と言っています。私も安心して公私共に忙しく走り回っています。宿泊も気軽にお問い合わせ出来る制度と職員の方々に感謝しています。

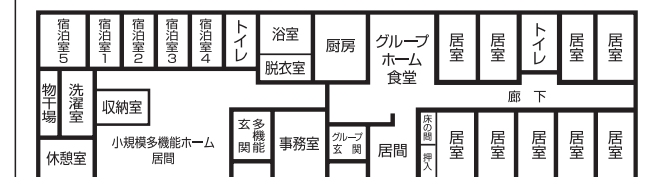
としました。訪問内容としては、様子確認の意味も含め、9時に5分間訪問し、朝食後薬の服薬と、昼食後薬を本人に渡し、(頭痛時は頭痛薬も渡す)17時に再び5分間訪問し、夕食後薬を渡しました。また、他者との交流の機会を増やす為、通いサービスを週3回とし、送迎時に訪問と同様のサービスを行いました。

さらに、娘さんに協力していただき、家庭用配置薬を全て業者に返却しました。

毎日のようにあった頭痛の訴えも徐々に訴える回数が減ってきて、現在では殆んど頭痛の無い状態が続いています。

本人にとって必要である場合には短時間でも、時間にとらわれず訪問できる事が小規模多機能型居宅介護の訪問の魅力のひとつではないかと思えます。

施設の平面図



職員の声

利用者の方達とは、お話したり、塗り絵、レクリエーション等の活動をしたりと様々行っていますが、少人数の為か時間がゆっくり過ぎているように感じられています。その為、介護度には個人差があっても、じっくりと向き合う事ができるのではないかと考えています。利用者の方達には楽しく過ごして元気に帰って頂きたいと思っておりますが、逆に元気を頂く事も多々あり、ありがたい限りです。

小規模多機能型居宅介護事業所

多機能ケアセンターほっと大町

テーマ ～住み慣れた地域との交流を大切に～

運営体制

運営主体	社会福祉法人 大槌町社会福祉協議会	利用料	宿泊費	1,650円
併設事業所	大槌町社協指定居宅介護支援事業所 大槌町社協指定訪問介護事業所		食費	朝食 350円 夕食 480円 昼食 500円+50円(おやつ代)
登録定員	25名		おむつ代	実費
通いサービス定員	15名	人員配置の状況	その他	趣味活動費等実費
泊りサービス定員	5名		管理者	1名
			計画作成担当者	1名(兼)
			看護師	1名
			介護職員	8名
			その他職員	

地域の紹介

大槌町は、岩手県の東部、陸中海岸のほぼ中央に位置し、東面はリアス式海岸に面しています。町の総面積のうち山林原野で約90%を占めています。人口は平成20年6月末現在で16,480人、世帯数6,323世帯です。高齢化率は30.07%と高い割合を占めていると言えます。

吉里吉里・浪板海岸海水浴場は夏になると観光客などで内陸からも多くの人が集まり、賑やかになります。なかでも、浪板海岸は片寄せ波で全国的にも有名です。新山高原には16基のウインドファームが設置されており風力発電による電力を町内外に提供できるエネルギーを作り出しています。一面に咲きほこる新山つつじの平原から見上げるウインドファームの立姿は、なんとも言えないスケールの大きさを感じさせられます。



事業所のプロフィール

社協としての在宅介護重視の考えから、これまでの訪問、通所、入浴に宿泊を加えることで在宅介護支援体制の充実が図られるものと、小規模多機能型居宅介護事業を導入したもので、場所は街の中心部に位置し、家族や地域の人達など誰でも気軽に立寄りやすく、ま



た、利用者と一緒に買い物も便利に出来ます。建物内部は、個室の一部が居間兼食堂と一体に開放可能なので、安心感と開放感があります。職員自らは、社協の運営理念と合わせ、「暮らしの尊重・安全と安心・気配り・地域交流」を大切にする理念を掲げ、早朝・夜間等通い時間にも柔軟に対応。職員手作りの食事、就寝時安心感の確保、通院付添いや投薬受領、入院時訪問。D・Sセンターとの合同イベント等、常に利用者と家族を中心とした心で接する介護を心掛けている。



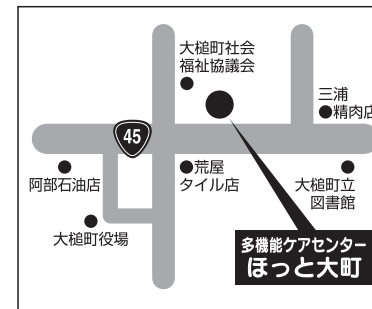
所在地 〒028-1112
岩手県上閉伊郡大槌町大町5番2号

TEL 0193-41-1555

FAX 0193-41-1556

URL <http://www.otsuchi-shakyo.jp/>

E-mail hot-omachi@cup.ocn.ne.jp



テーマ別取り組み状況「訪問」について

小規模多機能事業を展開して1年を経過しましたが、訪問サービスについてはなかなか需要が伸びず月平均にすると延23回の利用に留まっているのが現状です。

定期的な訪問サービスは、19人中1人の安否確認となっており、他に腰痛などで通所困難となった時に、日に2～3回のオムツ交換の対応でサービスの提供をしたことがあります。又、利用者の家族が残業で遅くなったりした時は、夕食の提供をするというプランも立ててありますが、まだサービスの実施には至っていません。

提供内容として主に割合を占めているのは病院受診に関する通院や薬受けのサービスになっています。

近隣に嘱託医もおり場合によっては施設に顔を出し



利用者&地域の声

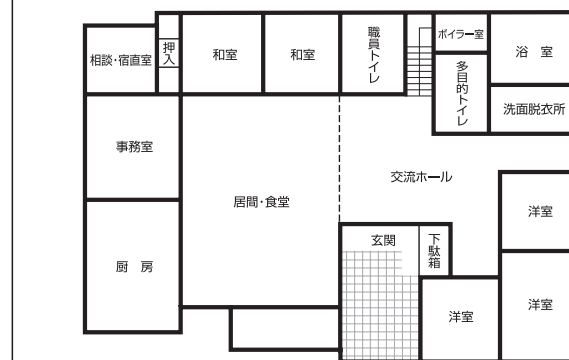
今年の6月から通いを利用しています。最初は週2日の利用でしたが回数を追う毎に話し相手が出てきたせいもあり、7月から週3日に増やしました。安心して入浴する事も出来、算数の勉強やゲートボール、ぬり絵等本人はほっと大町の利用が少しずつ楽しくなって来ている様です。家族の私達も時間を気にせず用事を足したり一息つく時間を作れたり感謝しています。職員達の対応の仕方も「親切でね～」と母は嬉しそうです。

てくれることもあります。先日は地震で病院のエレベーターが壊れていることを知らずに、車イスの利用者を連れて行って困っていたところ先生自らおぶって階段を上がってくれたこともありました。そのような信頼できる病院や先生がおり、利用者も安心して受診できるという心境の様です。

今後は、利用者の増加と共に「通い・泊り・訪問」と3つのサービスを必要に応じて合わせたサービスを柔軟に提供できればと考えています。

利用の申込み時などに説明はしているのですが、今ひとつ内容について理解してくれていないかなと思われる事もしばしばあり、こちらの力量のなさに反省させられます。利用者やその家族の立場になり対応できる環境作りを目指していきたいと思っています。

施設の平面図



職員の声

私達の施設は、昨年5月に開所しましたが、私自身学校での現場実習以外経験がなく戸惑うことが多くありました。これまでの施設と違い訪問、通い、宿泊を一体的に行うということで職員のチームワークが要求されましたが、個性豊かなスタッフに恵まれ仕事を楽しくしております。最近利用者様の様子で素早く、適切な対応ができるようになりました。これから力を合わせ利用者様や御家族様に満足なサービス提供に努めていきます。

小規模多機能センターあお空

テーマ ～安心して暮らせる“場”を探り続ける～

運営体制

運営主体	有限会社 介護施設あお空	利用料	宿泊費	5月～10月 900円 11月～4月 1,000円
併設事業所			食費	朝食 200円 昼食 400円 夕食 400円
登録定員	25名		おむつ代	実費
通いサービス定員	15名		その他	
泊りサービス定員	9名	人員配置の状況	管理者	1名
			計画作成担当者	1名
			看護師	2名
			介護職員	15名
			その他職員	1名 (調理) 1名 (送迎+レク活動)

地域の紹介

岩泉は、川と森と海に恵まれた鍾乳洞や広大な面積で有名な町です。町面積の93%が森林で、人口は約1万1千人、高齢化率は約36%です。ほぼ均等に集落が点在しており、移動に時間を要します。

沿岸の小本地区は、人口約2千人で国道455号と45号、三陸鉄道の拠点として、企業誘致や港湾整備促進に努めています。新築の事業所も、新興住宅地の一角に位置しているせいか周りの風景に違和感なく溶け込んでいます。小本川が源流から河口に多くの恵みを運ぶように、町内各地から利用者さんが集まっていますが、地域の皆さんの受け入れは良好で、地元の食材や建物の外観が潤うようにと植木を提供下さる方もおり、気軽に足を運んでいただいています。



事業所のプロフィール

介護拠点を作ることで地域貢献したい、という個人の想いを会社が継承する形で事業所は産声を上げました。

地元ケアマネの協力を得て10か月目に25人目の登録者さんを迎えることができましたが、その大きな要因は、開所8か月後に隣接された高齢者向けアパート

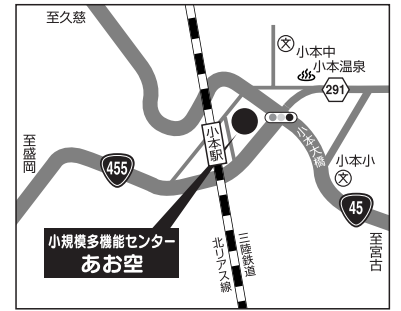


「メゾンおもと」にあります。寄せられる相談の多くが安心して暮らせる住まいの確保が前提でした。山間奥地での独居や老々介護、劣悪な住環境の為に社会的入院を余儀なくされている方、家族の中での虐待や介護放棄等事情は様々ですが、安心して暮らすための“場”を提供する形で役割を担い、地域のニーズに応えたいと考えています。

見切り発車の未熟な私たちを、地域資源として育成の視点で暖かく支援してくれる町の将来のために、本格的に歩き出したいと思えます。



所在地 〒027-0421
岩手県下閉伊郡岩泉町小本字南中野289番地
TEL 0194-28-3366
FAX 0194-28-3366
URL
E-mail aozora/omoto@globe.ocn.ne.jp



テーマ別取組み状況「訪問」について

私たちの「訪問」サービスは、隣接する住宅に登録者が集中していることで、移動時間の効率化が図れます。燃料費高騰の昨今、経済的にも助かりますし、地球温暖化をはじめとした環境問題の面でも「微力ながらの取組み」と勝手に評価をしています。夜間の訪問も多くなりますが、“距離”というハードルを取ることで「柔軟」な対応が可能となっています。

『暮らす』を辞書で引くと『寝たり起きたり、食事をしたり仕事をしたり遊んだりなどして、1日(1日)を生きていく』とありますが、とにかく連続する時間全てなのです。その時間を「生きる場」が、その人の「暮らす場=住まい」ととらえ、小規模多機能型居宅介護という制度を介としながら、共に考え迷いながら築いていくという姿勢ですので、特別なことはありません。



利用者&地域の声

【利用者のフミさん】

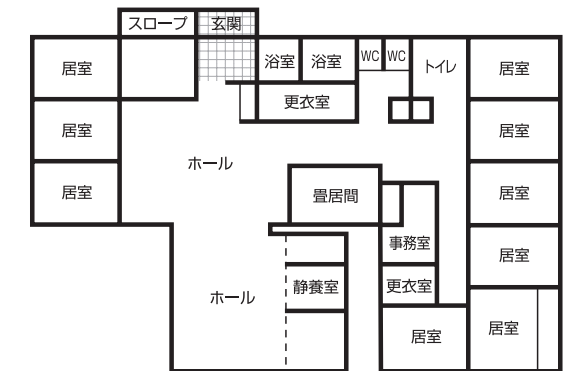
「ここはいいよ!とにかく皆やさしいし、大事にされる。言葉掛けも丁寧で涙が出たア。家では息子にボケだ、ボケ!と怒られ、あまされる。『オレを稼がせたかったら、行ってけろ〜!ここに居ると思えば安心して稼げるからよ〜』って、そして世話になってるわけだ。ありがたくて毎日涙が出んだよ。ここはなんの所だか偉い人がきたら是非訊いてみたくてこうして待ってんのよ。」

ません。

介護度の高い利用者さんが多いので、訪問ケアの内容は、多くが排泄介助や体位交換、移乗介助等の身体介護で、その他、散歩や買い物等の外出支援、毎日の環境整備(掃除)や洗濯といった家事援助ももちろん含まれています。スタッフは、「通い」「泊り」でもフルにシフトに入ってサポートしますので、状況を判断しながらサービス内容を調整しています。「型にはまらない」支援で対応することで、結果、個別性は出てきます。

小規模多機能では、あらためて「訪問サービス」という認識はスタッフ・利用者さん双方とも多分ないのではないのでしょうか。それで良いと思っています。毎日の訪問での何気ない関わり合いの積み重ねこそ、磨けば輝きを増す賜物と思っています。

施設の平面図



職員の声

「お疲れ様です!」と一歩建物の中に入ると、利用者さんとスタッフの笑い声が聞こえ、皆さまが本当にスタッフを信頼して下さっているんだなと思える風景がいつもあります。常に居心地の良い時間や場所を提供できるよう、スタッフも常に楽しい職場づくりを心がけています。

雰囲気としては、テンポよくリズムカルでさわやかに、皆の気持ちがひとつになる、フォークダンスの輪のようになれば良いなと思っています。

小規模多機能型居宅介護事業所かまどっこ

テーマ ～可能な限り住み慣れた地域での暮らしを支える～

運営体制

運営主体	社会福祉法人 藤実会	利用料	宿泊費	1,970円
併設事業所			食費	朝食 340円 夕食 440円 昼食 600円
登録定員	25名		おむつ代	フラット 30円 利用者持参 リネン 80円 不足時に別途料金徴収
通いサービス定員	15名		その他	
泊りサービス定員	5名	人員配置の状況	管理者	1名
			計画作成担当者	1名 管理者と兼務
			看護師	2名 非常勤パート (2人で一人分)
			介護職員	9名 上記看護師も含む
			その他職員	1名 調理員(特養と兼務)

地域の紹介

当事業所は、JR盛岡駅より西南約2kmに位置しここ数年西南開発地域として活性化されて、高齢化社会にも対応した街づくりに取り組んでいる。開発に伴ない人口も増加傾向にあり、2008年現在7,800人(2000年、3,600人)と今後も増加していく事と思われます。近隣には、市立病院、大型ショッピングセンターが備わり、遊歩道のバリアフリー化で、高齢者も安心して外出が出来るよう整備され、花や緑で飾られています。ハード面の整備に負けないようにソフト面の充実を図るため地域住民の町づくりへの参画を図っています。宅地分譲に伴い、新旧住民が新たな関係を築けるような様々な催しもの(老人クラブ・老人スポーツ大会・教室・講座等)により住み良い環境を目指している地域です。



事業所のプロフィール

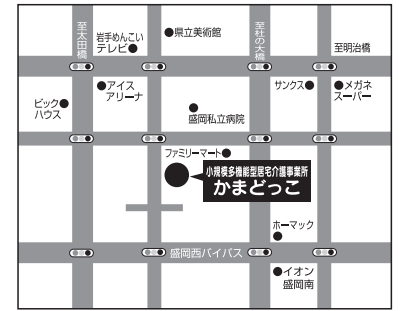
平成19年4月23日に小規模多機能型居宅介護事業所を開設。母体施設は社会福祉法人であり、特別養護老人ホーム、通所、短期入所、訪問介護、訪問入浴事業等を運営している。そのノウハウを当事業所で活かしながら事業運営を展開している。母体施設との情報の



共有を行うことにより、小規模多機能型サービスの普及を図る。また、施設広報の定期発行により、小規模多機能型サービスの啓発を地域住民へ回覧を通して実施。その他、地域住民の啓発に於いては、盛大な夏祭りを開催し、小規模多機能型事業所のサービス普及・啓発を図る。現在は、通い、泊り、訪問の各サービスを展開しているが登録定員まではまだ余裕がある。サービスエリアも広範囲であり、本来の目的である地域密着サービスを十分に展開できずにいるのが現状である。



所在地 〒020-0866
岩手県盛岡市本宮字小幅130-1
TEL 019-631-3897
FAX 019-631-3898
URL
E-mail fujimi-2@akebonosou.org



テーマ別取組み状況「関係機関との連携」について

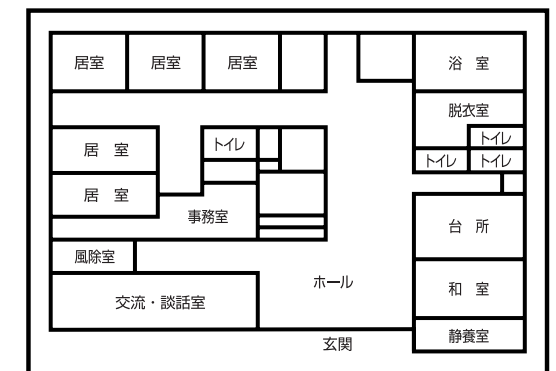
開設当初二人の利用者でスタートでしたので、当月の目標数達成が優先課題でしたから、関連機関には(かまどっこだより)を中心に広報活動をしてきたが少ない紹介件数にこだわると決して十分な連携とはいえないけれども、地元の民生委員の方には広報紙の町内回覧や行事の参加呼びかけをしていただく等、又地域包括からは在宅復帰担当看護師の紹介や所属の居宅より数名の利用者紹介、介護支援センター所属の居宅より数名最近紹介あり徐々に連携がとれてきている。或る民生委員は当地は介護施設が競争状態で、既にサービスを利用している方が多く当施設への利用切りかえをすすめるのは至難と話された。開設から2ヶ月後、馴染みのないところに来て急に地域密着施設と強調されて違和感ありと陰の声も聞かれたので、地元にも



利用者&地域の声

地域の声～開所時は、施設の外觀が飲食店に見えるとの声があったが、定期的に回覧される広報や夏祭り、夕涼み会などの季節行事で地域との交流を通し、徐々に地域に定着しつつある。身近にこのような施設があると、安心して老いて行ける。利用者家族の声～①仕事の都合により朝早い迎えと朝食の提供でとても助かっている。②週5日の定期通いサービス利用と急用時や介護疲れがある時等も利用出来るので負担なく在宅介護出来る。

施設の平面図



職員の声

利用者のお世話させていただきながら、こんな風にケアしていただけるなら認知症になっても安心と思うがその舞台裏は休日出勤、勤務変更、更に経営の問題等厳しい。この制度が住民に理解されるまで時間がかかりそうである。核家族化、共働きで在宅介護困難から入所希望の相談が多い中地域密着サービス利用で在宅生活をまるごとサポート支援させていただくにはサービス提供時における基準や態勢の整備が急務と思われる。

小規模多機能ホームひなたぼっこ

テーマ ～㊦一人ひとりの笑顔が、㊧慣れ親しんだ町で、㊨助けあいながら
㊩ほのぼの暮す。㊪ここではみんなが家族。～

運営体制

運営主体	社会福祉法人 光寿会	利用料	宿泊費	3,000円
併設事業所	住宅型有料老人ホーム『湖畔の宿』(隣接)		食費	450円
登録定員	25名		おむつ代	実費
通いサービス定員	15名	人員配置の状況	その他	日用品 200円
泊りサービス定員	5名		管理者	1名 兼務
			計画作成担当者	1名
			看護師	1名
			介護職員	9名
		その他職員	3名	宿直外部委託 職員託児ボラ

地域の紹介

人口7,200人程の小さな町。平成17年に旧湯田町と旧沢内村の合併によって誕生しました。

旧湯田町は、鉱山と温泉で一時代を築きました。一時は2万人に迫る人で町は賑わっていました。

一方の旧沢内村は、生命行政の深沢晟雄村長の元、昭和30年代後半、乳児死亡率0を全国で一番に達成した村です。子供から老人まで、同じ人間として尊重する意識と姿勢は、先代から脈々と受け継がれてきました。

今、この2つの特色を持つ町の存在意識を明確にし、

“命を護る癒しの森計画”が待望視されています。

温泉と大自然に触れ日常の疲れを癒し、人に触れ生きている実感を味わう。日常の荷物を降ろし、明日からまたがんばっていきける気持ちになれる場所となれたら…今、人間力による町づくりが始まっています。



事業所のプロフィール

特養光寿苑が、最期まで尊厳を保ち、天寿を全うした後も、その消えゆく命から生きる意味を教わる看取りの場として確立してきた中で、独居や老夫婦世帯のお年寄りたちが、いかに元気に生活していけるか。その一役を担うため、ひなたぼっこ開設を急ぎました。

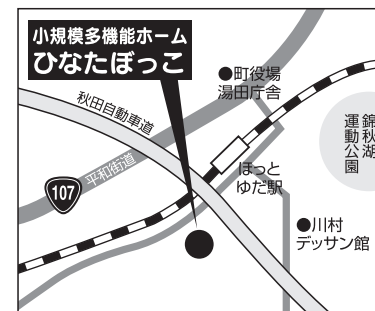


当方の一番の特徴は、住宅型有料老人ホームが隣接している点です。要するに、自分の家での生活が困難になってきたお年寄りの別荘、もしくは新居なのです。

この『湖畔の宿』に居住しながら、仮に介護サービスが必要になった場合でも、隣のひなたぼっこのケアを受けられる(登録)。また、食事の仕度がままならなくなっても、外部の配食サービスや出前なども使えます。(現在、特養本体の配食Sが、月～金の昼夕配達可能) 正に、外付けサービスとのコラボです。



所在地 〒029-5511
岩手県和賀郡西和賀町上野々39地割180
TEL 0197-81-1313
FAX 0197-82-3939
URL <http://www.koujyukai.or.jp> (特養本体のHPで、今後UP予定)
E-mail koujhu@fancy.ocn.ne.jp



テーマ別取り組み状況「関係機関との連携」について

関係機関との連携として、包括支援センター、社会福祉協議会、在宅の介護支援専門員等にも運営推進会議に入って頂き、ケース検討等重ねることで、お一人お一人の生活を多方面から支えていこうとしています。

ひなたぼっこ運営の中で最も危惧することは、何と言っても医療との連携です。緊急時、いかに対応できるのか。例えば、こんなことがありました。

利用者送迎中、お一人の方が突然いびきをかき始め、意識を失った際、他の職員に迎えに来てもらい、一方で近くの病院に連絡。対応が早かったため、何とか元気に回復されました。この時の課題として、どこでどのような状況で発生し、どこに連絡をすればいいのか等、瞬時に判断・行動しなければならない点でした。



利用者&地域の声

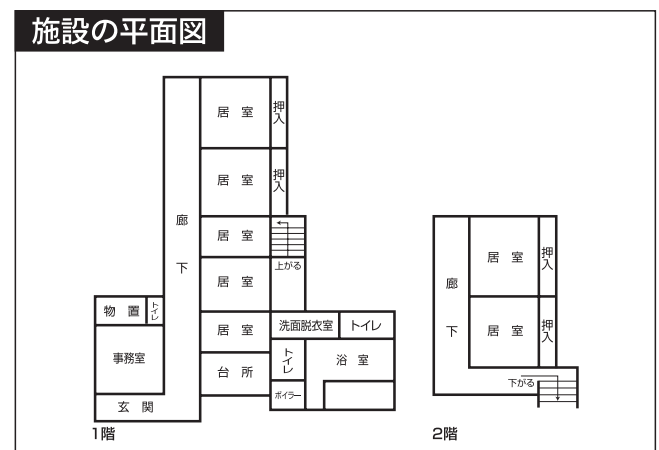
癌と宣告され、入院前までの数日間、緊急の泊りを利用された独居で60代の女性の詞。

『何で私だけ！何度も癌にならなきゃならないの？』と嘆きました。まだやりたい事、考えていた事が沢山あったのに…。絶望で真っ暗になって、もう二度と笑うことなど無いと思っていました。けれど、ここにお世話になって、職員さんたちの温かい人柄に触れ、落ち着いた木の温もりの中で、『もう一度、生きて帰ってきたい。』と思いました。

また、その方の主治医を認知できているかどうかも重要点としてあげられました。

医療との連携の中でも、終末期ケアまで見通した検討と議論をどれだけしているかが重要課題の一つです。

先日、ある利用者の終末期の担当者会議を行いました。仮にAさんとして、Aさんは90代の高齢、独居でひなたぼっこの行き来をしています。食欲と体力の低下が著しく、今後どうケアしていくかを主治医と相談しました。家族の要望は、『入院などせず、このまま家とひなたぼっこ利用しながら最期を看取りたい。』との考えでした。別居の娘様を中心として、医師の往診をこれまで通り密にしながら、ご本人の『おら、どこさも行きでぐねえ。』という思いに添い、今の生活をサポートすることに主眼を置いたケア体制。この役割分担こそ、連携ケアの果たすべきことだと考えます。



職員の声

ひなたぼっこでは、一ヶ月に一回、小規模多機能サービス登録者以外の地域の方々とのふれあいの場として、『お茶会』を実施しています。

このお茶会では、ひなたぼっこでの生活を体験頂くことで、地域に理解してもらおうというねらいがあります。最大のメリットとしては、お茶会の参加者が、自発的に編み物教室的なものを開くなど、私達職員が学ぶ場にもなっていることです。その方の居場所となれば、最高の予防ですね。

宅老所せんまや

テーマ ～住みなれた地域で安心して暮らせるよう支援します～

運営体制

運営主体	特定非営利活動(NPO)法人千厩まちかどケアセンター	利用料	宿泊費	4,000円
併設事業所	谷藤内科医院		食費	朝食 400円 夕食 500円 昼食 500円
登録定員	25名		おむつ代	実費
通いサービス定員	15名	人員配置の状況	その他	
泊りサービス定員	5名		管理者	1名
			計画作成担当者	2名
			看護師	4名
			介護職員	13名
		その他職員	2名	調理員

地域の紹介

岩手県南の内陸部と沿岸部を結ぶ気仙街道に一関市千厩町があります。

人口は、12,719人。古くから馬産地として栄え、千の馬屋(厩)があったことから「千厩」と名付けられたと伝えられています。

町内には、旧横屋酒造があり大正元年創業の情緒あふれる25棟の蔵群は国の登録有形文化財となっており、大正浪漫が漂う空間を満喫できます。他にも町のシンボリック存在の夫婦店、葉タバコで栄えた千厩地域の歴史を物語る明治30年建築の旧専売局(現在は街角資料館として生活文化資料が展示されています)、まちの駅(産直)等があります。

ご利用様の散歩コースや地域の方々との交流の場にも活用し喜ばれております。



事業所のプロフィール

開設者である、隣接する谷藤内科医院院長は、自らの両親の介護に最適な形を模索した結論として、小規模多機能型介護に辿り着きました。開設以来職員は、「今困っている人に手をさしのべよう」を合い言葉に、一丸となり努力して参りました。「通い」「泊り」「訪問」の組み合わせ例、ご夫婦での利用例、医療を頻繁に必要とする例など幅広い需要に応えてきました。経験を重ねる毎に、従来の施設型や、単品の介護サービスでは対応困難な例でも、きめ細かな対応が可能であるとの自信を深めて参りました。特に、介護と医療が緊密に連携していることが利用者さんにもご家族にも安心していただける最大のメリットとなっています。地域の皆さんとの交流を盛んにし、明るく楽しい暮らしの場を提供することを心がけております。



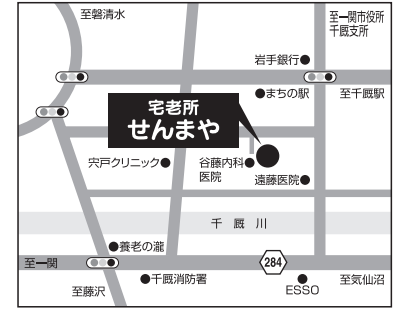
所在地 〒029-0803
岩手県一関市千厩町千厩字町浦185

TEL 0191-51-3315

FAX 0191-51-3351

URL

E-mail



テーマ別取り組み状況「関係機関との連携」について

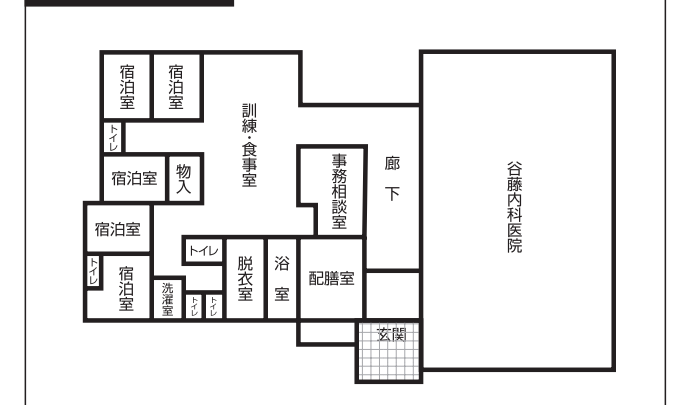
宅老所せんまやは、谷藤内科医院と併設になっています。医院長は宅老所せんまやの開設者でもあり、理事長を務めておりますので医療とは緊密な連携が可能です。又、近くに、外科・歯科・整形の個人病院があります。院長の力添えもあり連携を取りやすいこと、歩いて行ける距離等から、歯の治療をされている方々もいます。

次に、地域との連携の、一例を紹介いたします。

宅老所せんまやを利用されている、夫婦二人暮らしのHさんという女性の方がいます。担当のケアマネジャーから紹介を受けたとき、Hさんは帰宅願望が強く、「実家に帰る」と、早朝や夜も出て歩いていました。近くには柵の無い池や線路があり、危険が身近にあり



施設の平面図



利用者&地域の声

最初は、小規模多機能型の居宅介護の活動がよくわかりませんでした、利用するようになって「ああ、こういう施設が各地域にあつたらいいな」と思うようになりました。

第一には、アットホームな雰囲気と一人一人を家族同様の扱いをしてくれる所であり、認知症を持つ家族が一番安心してまかせられます。

他人を事務的に処理してしまう世の中で「愛のある事業所」として発展させて欲しいと思います。

職員の声

宅老所せんまやは、サービスの提供の場というより、お年寄りから沢山の事を教えられる、昔ながらの笑顔の多い大家族のような雰囲気です。

そんな和みの雰囲気の中だからこそ、お年寄りひとりひとりが、今どのように思い悩んでいるのか、どのように暮らしていきたいのか気持ちを受けとめ一緒に解決していく事ができます。宅老所は、地域の方々の協力の下、お年寄りの心が和み安心して集えるところです。

小規模多機能ホーム カッケロ

テーマ ～であいから絆へ～

運営体制

運営主体	株式会社 ハートフェルトケア	利用料	宿泊費	2,000円
併設事業所			食費	朝食 300円 夕食 400円 昼食 300円
登録定員	24名		おむつ代	サイズ別料金(テーナ)
通いサービス定員	12名	人員配置の状況	その他	行事実費相当分
泊りサービス定員	5名		管理者	1名
			計画作成担当者	1名
			看護師	2名
			介護職員	6名
		その他職員	1名	調理員

地域の紹介

小規模多機能ホーム「カッケロ」は、岩手最北に位置する洋野町(旧種市町)にあります。洋野町は、平成18年1月1日「大野村」と「種市町」の合併により誕生しました。カッケロが位置する所は、海岸気象の影響を受け、春から夏にかけて「ヤマセ」に伴う濃霧が発生します。そのため、湿度が高く日照時間が短く野菜や稲の生育には厳しい環境にあります。また、海岸に面しているため「海の幸」が豊富に取れる他、ウニの養殖に力を入れており全国的にウニの産地として名が知られています。

カッケロを利用している高齢者も、漁業者が多く見られます。そのため漁業の話題には、会話が弾むとともに歴史の深さを感じます。そんな洋野町とその歴史を作り上げて来た高齢者をカッケロは支援します。



事業所のプロフィール

小規模多機能ホーム「カッケロ」は、以前町の公共施設として使用されていた中野地区にある「老人憩いの家・白寿荘」を町から借用、リフォームし、2007年11月オープンしました。開設の経緯として、今地域住民の方達が必要としているもの、地域住民の活性化に



つながるものとして、地域と密着した福祉事業を行うこと。そして介護の必要なお年寄りの方達が可能な限り住み慣れた地域での生活を継続することができるよう、通い・訪問・宿泊の形態で、家庭的な環境と地域住民との交流の下、必要な日常生活上の援助を行うことで要介護者の孤立感の解消及び心身機能の維持、家族の身体及び精神的負担の軽減を図ることを目的に生まれました。



所在地 〒028-7906
岩手県九戸郡洋野町中野5-62-8
TEL 0194-68-5420
FAX 0194-68-5170
URL
E-mail o-suzuki@hf-c



テーマ別取組み状況「関係機関との連携」について

地域密着型サービスは名前の通り地域に開かれ、そして、地域に根ざすサービスでなければいけません。町役場、地元の消防団、老人クラブ、婦人会、小・中学生等との連携を図るために、施設で行う行事等の呼びかけや、慰問、ボランティアの積極的な受け入れ、見学者や相談者を拒むことなく情報を照会してきました。これは、地域密着型サービスの基本的理念であり、この思いを伝えることで少しずつ連携が図れてきたと思います。始めのうちは、小規模多機能型居宅介護と言っても今までの通いでしょ、訪問介護でしょといった、あくまでも名前が変わっただけと思われていました。しかし、行政、居宅介護支援事業所との情報を密にしていくことで、時間や曜日、回数にとらわれず、



利用者&地域の声

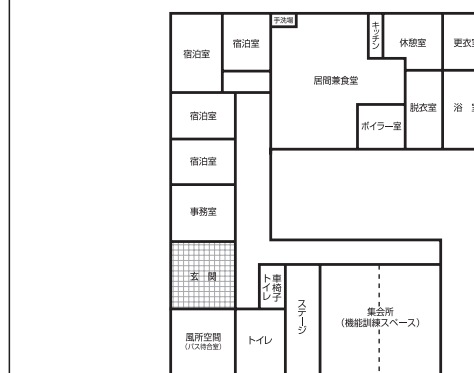
利用者の方からは「今までは通い利用時、帰りたい時に帰れないし、病院受診時が大変だったけど時間、曜日にとらわれず自分の都合に合わせて利用できるのとても助かります」と感謝の言葉をいただいている。

地域の方よりも「近くに福祉施設が少ないのでとても心強く頼りにしています」と声をかけていただいている。

利用者の現在置かれている状況を踏まえて多機能サービスを柔軟に提供することで、施設入所するのではなく、生まれ育った地域での在宅生活を継続できるように支援することができるということが地域の方などにも徐々に理解されてこられたと思います。そして施設側が積極的に地域の行事等に参加することにより、地域の方々が気軽に施設を訪ねていただき利用者に関わりを持っていただいたり、社会的孤立感が地域の方々によって解消されたりと地域の力はとても大きく感じました。

今後は他の市町村主催の研修会を情報提供してもらい、町役場に提供することで、色々な研修会に参加し、他事業所共に知識を深めて行きたいと思っています。

施設の平面図



職員の声

利用者が住みなれた地域の中で安心して暮らしていけるように固定した時間にとらわれず、利用者の状況に合わせて提供時間、方法を変化させサービスを提供してきました。そうしたことにより、本人、家族より「利用して良かった」「本当に助かっています」など多くの感謝の言葉をいただきほんとうにやりがいのある仕事だと思っています。今後も皆様から喜ばれるように、利用者本位のサービスを提供していきたいと思っています。

えんどり小規模多機能型居宅介護事業所

テーマ ～えんどり17条憲法を基に「ゆっくり」「のんびり」「地域の中で」～

運営体制

運営主体	特定非営利活動法人 宅老所えんどり	利用料	宿泊費	2,000円
併設事業所			食費	1食 400円
登録定員	18名		おむつ代	実費
通いサービス定員	9名	人員配置の状況	その他	日常生活費 80円 私物の洗濯 300円 冬季暖房費 150円 (おまりのみ) 宿泊用寝具リース洗濯代 1日90円 (別紙料金表参照)
泊りサービス定員	6名		管理者	1名
			計画作成担当者	1名
			看護師	1名
			介護職員	7名
			その他職員	

地域の紹介

紫波町は、岩手県のほぼ中央、県都盛岡市と花巻市の間に位置し、人口3万4,332人の自然環境、社会環境ともに恵まれた町です。町は、官公署と商店街が集まっている中央部、北上高地に抱かれた丘陵で畑作やりんご・葡萄などの果樹の生産が盛んな東部地域、奥羽山脈の裾野に広がる土地でもち米・果樹・畜産などが盛んな西部地域に分かれています。当事業所は中央部に位置し、伝統獅子踊り、祭りなどが盛んな土地柄にあります。近年急速に宅地開発が進んでいる土地柄でもあり地域の伝統を代々引き継いできた人達と、新しく移り住んできた人達が共に伝統行事を盛り上げている地域です。



事業所のプロフィール

餅つきをするときには、杵でつく人とお餅をひっくり返したりする人が必要です。このお餅をひっくり返したりする人をこの地方では「えんどり」と言います。お互いの関係がうまくいかなければ美味しいお餅はできません。「認知症」の原因のひとつに「関係障害」



という人間関係や環境によるものがあると考えています。だからこそお互いの人間関係を「寄り添う」ことで改善できるのではと考え「えんどり」と名付け平成14年に一ヶ所目の「宅老所」を開設。更に平成15年に二ヶ所、そして平成16年5月にもう一ヶ所、えんどり独自の「17条憲法」の精神を生かしながら、「ゆっくり」「のんびり」「地域のなかで」を基本理念に平成19年6月に小規模多機能型居宅介護事業所を開所しました。



所在地 〒028-3304
岩手県紫波郡紫波町二日町字山子36-2
TEL 019-671-3550
FAX 019-671-3551
URL
E-mail endori-takinou@angel.ocn.ne.jp



テーマ別取り組み状況「地域との関わり」について

町内初の多機能型居宅介護事業所として地域に根ざす為に、町内会への参加、開設当初すぐ近隣へチラシの配布を行っています。運営推進会議を地域との関わりのおかげに活用し、役場の介護保険の担当室長には「地域密着型サービスである多機能事業」について説明をしていただいたり、メンバーである民生委員さんや老人クラブの会長さんの助言やお膳立てにより、地区公民館行事へ参加出来たり、学区の福祉体験学習への取り組み協力をすることで、文化祭に来賓として、招いていただいたりして世代間交流も兼ね、事業所の特性を理解していただく機会を作っています。更に、地域密着型サービス事業者と共同で「認知症」サポーター養成の呼びかけや「認知症」に対する理解を



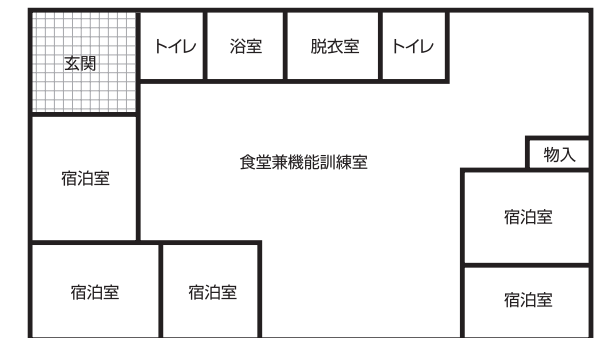
利用者 & 地域の声

年をとっても小さい頃の記憶や地域の思い出を覚えている。だが「認知症」は新しい記憶をなくしたり、環境や物事の変化で混乱する。出来るだけ覚えている昔の名残り、慣れている状況で過ごしたい。地域のそばで、見慣れた景色と顔馴染みのスタッフで混乱しない介護をしてくれる地域密着型サービスの多機能施設に期待している。

深める場として、映画上映会を開催。もっている知識の地域への貢献として、看板を設置し地域住民の介護相談窓口としての位置づけなどを図っています。

地区の民生委員さんの集まりなどでは、行方不明者（認知症による徘徊）の捜索の地域体制構築の投げかけも行ないました。現在、一人暮らしをしていたTさんが、やむなく家を離れて「えんどり」での暮らしになっても、地域の方との繋がりは強く、手製の「きりせんしょ」を持って気軽に遊びに来れる、気の張らない場所になりつつあると感じています。

施設の平面図



職員の声

介護職員の「資格」等は、不要となっているが、多様化するニーズに対応していくには「知識・援助技術・経験値」もある程度ないと、多機能なケアの実践は難しい。チームケアが大切といわれる昨今、自らの資質を向上させつつ、チーム力も向上していかないと「利用者」の望むケアの実現は遠い。そして、自分自身の感情のコントロール、ストレスのはけ口、理想と現実のギャップに燃え尽きてしまわないように……。

小規模多機能ホームわが家

テーマ ～一緒に喜怒哀楽を共有できる時間を持ちながら、気持ちを共有し、安心できる関係をつくります～

運営体制

運営主体	医療法人社団敬和会	利用料	宿泊費	3,500円
併設事業所	グループホーム・サテライト型老人保健施設		食費	朝食 400円 夕食 500円 昼食 600円
登録定員	25名		おむつ代	紙オムツM 60円・紙オムツL 70円・リハビリパンツM 70円・リハビリパンツL 80円・リハビリパンツLL 90円・尿とりパット 20円
通いサービス定員	15名	人員配置の状況	その他	日用品費 100円
泊りサービス定員	7名		管理者	1名 (介護職と兼務)
			計画作成担当者	1名 (看護師と兼務)
			看護師	1名 (計画作成者と兼務)
			介護職員	9名
			その他職員	

地域の紹介

「わが家」のある北上市は県の内陸部に位置し、人口9万3千人・高齢化率21%の市です。北上駅がある市内東部は住宅も多く、商店が立ち並ぶ都市型ですが、「わが家」のある和賀町は市内西部にあり過疎化が進む農村地域です。地域住民の方は代々この地域に根を下ろし暮らしている方が多く、二世帯または三世帯で同居している家族も多いのですが、若い世代の方々は日中仕事の為、日中は高齢者だけで過ごされている方が多いです。農村地域で昔から集落ごとに協力しながら暮らしてきたため、現在でもご近所同士のネットワークは充実しています。和賀町には温泉場が多く市民の癒しの場所になっています。また、県内でも有数の豪雪地域のため、冬の時期には家族総出で庭先の雪かきをしている姿がよく見受けられます。



事業所のプロフィール

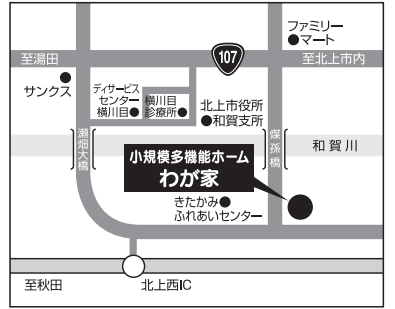
開設の経緯～この地域は市内中心部に比べ介護事業所も少なく在宅介護支援が手薄の状態でした。この地域の高齢者をこの地域で支えていきたいと思っていたところ、地域の拠点となっていた農協が撤退し、敷地の有効活用を地域から切望され、地域の願いと事業所の



思いが融合し開設の運びとなりました。
施設の特徴～田園風景の中に溶け込むように外観は古民家風に仕上げ、玄関には土間があり地域の方々が靴のままでも施設に入れるようになっています。
運営の特徴～認知症になられてもその人らしい暮らしが継続できるように、日課の取り決めは無く、その日の利用者の顔ぶれと体調等を確認しながら散歩・ドライブなど行っています。土に親しんできた方が多いため、敷地内には畑を作り野菜を育てています。



所在地 〒024-0323
岩手県北上市和賀町煤孫10-14-5
TEL 0197-73-8355
FAX 0197-73-8356
URL <http://www.keiwakai.info/wagaya/index.html>
E-mail wagaya@keiwakai.info



テーマ別取り組み状況「地域との関わり」について

地域との関わり～「わが家」は自治会に参加し回覧板を通じ、ご近所との馴染み関係作りに努めています。「わが家たより」という広報誌を2～3ヶ月毎に発行し地域に我々から情報の発信を行っています。また、地域の行事(運動会・演芸会・敬老会など)にも積極的に参加し、「わが家」独自でも地域の老人クラブに声かけして春には花見、秋には芋の子会を開催しています。職員一人ひとりを覚えていただけるように地域の方々食事しながら会話する機会を大切にしています。農村部ならではの近所付き合いが出来るよう、困った事があれば双方で気軽に相談できるような関係を構築していきたいと思っています。最近は地域のボランティアの協力で草刈を行っていただきました。週に1



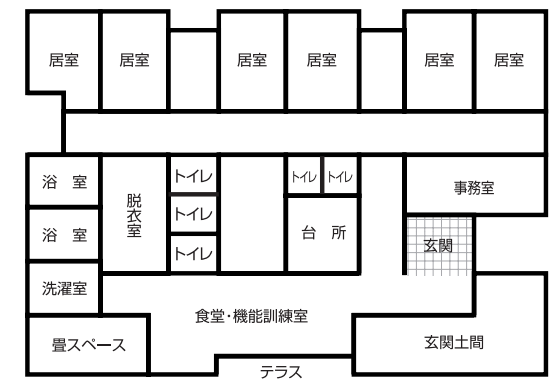
利用者&地域の声

地域の方より～農協や小学校とも合併に伴い、地域からなくなり寂しい思いでしたが、その地域に新築の建物が出来、嬉しく思っている。花見や芋の子会を開いてもらい施設に入るきっかけを作ってくれたのでありがたい。一度中に入って職員とも話してみると親近感を覚える。ご馳走になるだけでなく我々でも役に立つことがあれば協力していきたいと思っている。

回はご近所でヨガを習っている方に来ていただいて一緒にレクリエーションを行っています。今後もボランティア(私たちはまごころ会員さんと呼んでいます)を募っていけるよう活動を継続していきたいと思っています。

今年の4月に地域の3つの小学校が合併して新築の小学校が開設しました。地域の同年代の方々との交流だけでなく、孫世代とも交流の機会を作りたいと思い、小学校に協力を求め今年の秋から交流の機会を持つことになりました。子供たちとスキンシップを取れるような、継続できるような交流にしていきたいと思っています。今後も地域に必要とされる、地域に愛される「わが家」を目指していきたいと思っています。

施設の平面図



職員の声

利用者と身近にいる事が出来るので、一緒に笑ったり、辛いだろうなと感じたり気持ちを共感できたと思える瞬間は仕事をしていて充実感が持てるし、利用者のことが愛おしく感じる。小規模多機能は通って来る日中の表情・泊まるときの夜の表情・訪問したときの自宅での表情を見ることができ、認知症の方というよりも生活している年配者として自然に関わる事ができる気がしている。

奥州壱番館

テーマ

～「地域の『つながり』の中で1人1人の暮らしを支え応援します。街全体での介護を目指します。」～

運営体制

運営主体	有限会社 ナカノメ	利用料	宿泊費	2,000円
併設事業所			食費	朝食 300円 夕食 400円 昼食 500円
登録定員	25名		おむつ代	自宅からもってきていただきます。
通いサービス定員	15名	人員配置の状況	その他	430円 宿泊時のリネン代金 (クリーニング代金)
泊りサービス定員	8名		管理者	1名 計画作成者を兼務
			計画作成担当者	1名
			看護師	3名 非常勤
			介護職員	9名 常勤 7人 非常勤 2人
			その他職員	2名 調理員

地域の紹介

奥州市は、岩手県の内陸南部に位置する、人口約13万人の街です。地域の中央を全国4番目の河川「北上川」が流れています。古来より豊穡の地であり、奥州藤原氏の栄えた、奥州平泉と隣接しています。

私たちの住む奥州市水沢区は偉人の町としても知られており、幕末の蘭学者高野長英、東京市長を務め関東大震災の復興に尽力した政治家後藤新平、海軍大臣・総理大臣を務め2・26事件の凶弾に倒れた政治家斎藤實を輩出しています。



「水沢商人の通った後は草も生えない。」と言われた土地柄です。商業の盛んなところで、仙台伊達氏の城下町で一步路地に入ると昔ながらの建物・町並み、寺院が多く残る町です。歴史と文化、にぎやかさと静けさがほどよく調和した街です。

事業所のプロフィール

奥州壱番館は(有)ナカノメの運営する小規模多機能型居宅介護事業所です。薬局運営から始まり「介護と医療をトータル的にサポートする」「地域とのつながりの中で在宅生活を一緒に支援していく」という理念のもと、福祉用具レンタル事業・訪問介護事業・居宅

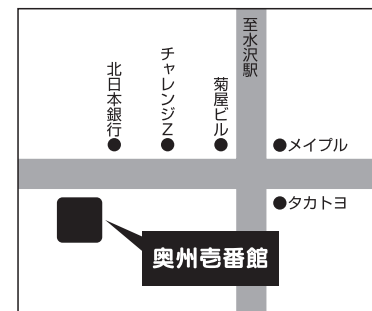


介護支援事業・通所介護事業を展開してきました。『在宅生活支援』を基本としています。

奥州壱番館は商店街の中、交通の便・利便性のよいところにあります。そのためか登録利用者様のほぼ半数は、ご家族様が出勤時間にあわせて送迎してくれます。また、「買物ついでに寄ってみた。」と知り合いの方が立ち寄られます。お盆・お正月の売り出しや各種お祭の見学に出かけ、季節の移り変わりを感じてもらえるよう心掛けています。



所在地 〒023-0045
岩手県奥州市水沢区字大町57番地
TEL 0197-24-7001
FAX 0197-24-7061
URL
E-mail ichiban@nakanome.biz



テーマ別取り組み状況「地域との関わり」について

商店街の中にあるという場所柄、お盆やお正月、クリスマス、赤い羽根共同募金、お祭、催し物、といった季節の節目の行事には利用者様と一緒に街へ出かけていきます。

お盆の朝市に出かけたときは、「昔は葦で編んだお皿に蓮の葉をのっけてその上にお供えしたもんだった。ナスとかキュウリで馬っ子作って川さ流して先祖供養したった。」ということを教えてくださいました。朝市の行商の人と昔話をされていました。

赤い羽根共同募金にはほぼ全ての利用者様が募金をされました。保育園・幼稚園の園児が当番の時間を狙って行きました。子供たちと接すると、みな笑みがこぼれます。募金を通じて「人の役に立っていること、現



利用者&地域の声

父の介護をしていた母が今年亡くなり、仕事をしている私は、日中介護出きる状況では無く壱番館を利用しています。仕事の時間に合せて送迎が出て、週2回夕食までお願いしているので、時間を気にせず仕事ができますし、家族の都合で早朝や宿泊も対応してくれるのが一番助かっています。父に取っても日中は壱番館、夜は自宅で過せる事が一番良い状態だと思います。24時間体制の施設だから私達家族の生活が助けられています。

役の一市民であること」を自覚いただいたのではないかと考えています。

近くの幼稚園・小学校の生徒さんが、年に2～3回踊りや歌の発表のため壱番館を訪れます。利用者様の中には卒園生・卒業生がおられます。尋常小学校からの変らぬ校歌を70年～80年の時間を超え、生徒さんと一緒に歌う姿はすごい！素晴らしいです。開所1周年の日は紅白饅頭を利用者様と一緒に近隣の店主様に配って歩きました。和服のお店の人から「〇〇さんですか。お久しぶりです。おげんきでしたか。壱番館に来たついでに寄ってってください。」と話かけられました。利用者様が懐かしそうにお店の方と話し込む姿を見て、人と人とのつながりの深さを感じました。

こうしてできたつながりを、日々のかかわりにつなげていきたいと思っています。

施設の平面図



職員の声

開所して1年が経とうとしていますが、地域の方々とのつながり、ニーズの異なる利用者さんとの関わり方など模索しながらの1年でした。その中で利用者さんの笑顔や楽しいお話に私達職員は支えられてきました。また、利用者さん同士のつながりもあり、なかなか通いにいらっしやなかった利用者さんも今では「今日は楽しかった」と言ってくれるようになりました。こうしたつながりを大切により良い支援を目指します。

シルバーヘルス小規模多機能型居宅介護事業所「北斗」

テーマ ～信頼関係を大切に～

運営体制

運営主体	医療法人 白光	利用料	宿泊費	2,500円
併設事業所	介護老人保健施設シルバーヘルス一関		食費	朝食 400円 夕食 500円 昼食 600円 (オヤツ含む)
登録定員	25名		おむつ代	実費
通いサービス定員	15名		その他	冷暖房費 60円/日 初期加算 30円/日
泊りサービス定員	9名	人員配置の状況	管理者	1名
			計画作成担当者	1名
			看護師	1名
			介護職員	8名
			その他職員	2名 宿直員

地域の紹介

日本で最も広い面積を持つ県、岩手県『みちのくの地』の南部に位置する環境優美な一関市。平成18年の市町村合併により、1,133.10km²となり、面積も県内一になりました。総面積の半分は山林地帯で5分の1は田畑で占められており、県内でみると、比較的農地割合が高い地域です。

人口は約14万人であり、65歳以上の高齢者は28%を占め、今後もさらに高齢化が進み、平成26年には30%に達するという状況です。

高齢者の6人に1人が要支援・要介護と認定されており、なかには老々介護で在宅での介護が厳しくなり施設入所希望ではあるが、施設に入れず、待機待ちの方も多い状況です。



事業所のプロフィール

シルバーヘルス小規模多機能型居宅介護事業所「北斗」は、医療法人白光介護老人保健施設シルバーヘルスの併設事業所として、平成20年2月に開所いたしました。

きっかけは、医療法人白光にて介護老人保健施設を



運営しているが、リハビリし心身に良くなって在宅に戻る方が安心して在宅介護できる手段を探していたところ、平成18年3月の法改正にともない、地域密着型のひとつの小規模多機能型居宅介護という『住み慣れた地域で安心して住み続けられ、利用者の尊厳を大切に通所を中心とし、泊まりや訪問の機能も利用できる』という概念の事業もあるとの事、役員検討の結果、当法人において小規模多機能型居宅介護事業所「北斗」を開設することになりました。



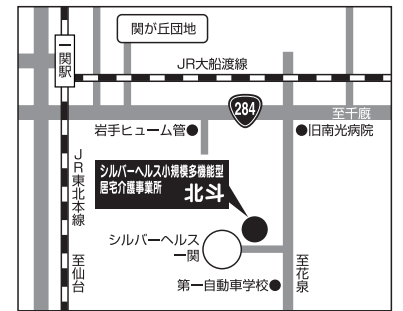
所在地 〒021-0852
岩手県一関市字沢298番地2

TEL 0191-26-0021

FAX 0191-26-0022

URL <http://www1.ocn.ne.jp/~hokuto25/>

E-mail hokuto@spice.ocn.ne.jp



テーマ別取り組み状況「地域との係わり」について

当事業所は、住宅地や商店街から離れた場所にあり、地域と係わりづらいところがありましたが、それを解消するにはどうしたらよいかから考えた時に、まずは『北斗』が新しく出来たことをわかっていただく事が第一であるということで、近隣の民区の区長、民生委員にパンフレットを持参し、「通い・泊り・訪問サービスが受けられる事業所ができました。」という話を話してまわりました。又、推進会議にも参加していただき、徐々に信頼関係ができてきており、先日は介護予防教室の日程等も教えていただき、当法人の在宅支援センターと共に介護予防教室、いも煮会、ミニ運動会にてパンフレットを渡していただいたりと、一歩づつではあるが、信頼関係も深くなっている状況でした。



利用者 & 地域の声

平成19年9月から喘息と心不全で10ヶ月程3ヶ所の病院を行ったり来たりしていました。体調も安定し退院の話が出たが、腰痛持ちの夫とのふたり暮らしは厳しいと、県外に出ている長男長女が“家と事業所を行ったり来たりできる事業所『北斗』”に登録、当初は慣れない環境に不安を感じていましたが、現在では家と事業所の行き来もできたり、ひとりで生活している夫も要支援1と認定され、訪問に入ってもらっています。

そのような状況下で、在宅支援センターから、ひとり暮らしで認知症の方がいるので登録したいということで、まずは訪問からすることにしました。なかなか玄関を開けてくれないとか、協調性がないというような話を聞いており、訪問も厳しいのではと思いながらケアマネや訪問員が何度か足を運んでいるうちに、なじみの関係ができ、さらに信頼関係も深くなりました。

当事業所の通いも前向きに考えていただき見学まで進んでまもなく、自宅で転倒し入院したとの事、一時訪問も中断となりました。数週間後、退院許可おりましたが、家族からしばらく泊りをお願いしたいと話あり、今では心も開けていただき、安心して御利用されています。これも利用者、御家族、周りの方々との“信頼関係”があればこそその結果かと思えます。

施設の平面図



職員の声

小規模多機能型居宅介護事業所で働き始めて7ヶ月が過ぎようとしています。以前は介護老人保健施設で働いておりましたが、平成19年2月から小規模に移ってきました。最初は不安でしたが日々利用者とおふれあっているうちに、その方の性格や背景、動きや支援等少しずつ見えてきました。これからも利用者が快適に御利用していただけるよう、日々利用者とお向きあいながら介護していきたいと思えます。

おもえ小規模多機能支援センター

テーマ ～一人のこまったさんに耳をかたむけて…～

運営体制

運営主体	特定非営利活動法人 ふれあいステーション・あい	利用料	宿泊費	3,000円
併設事業所	居宅介護支援事業所 通所介護（介護予防）事業所		食費	朝 200円 昼 500円 夜 500円
登録定員	24名		おむつ代	200円
通いサービス定員	12名		その他	洗濯代1回 100円
泊りサービス定員	5名	人員配置の状況	管理者	1名
			計画作成担当者	1名
			看護師	2名
			介護職員	10名
			その他職員	

地域の紹介

宮古市重茂地区は、本州最東端の半島に位置する。人口1,746人、464世帯（平成20年9月1日 住民基本台帳より）で、有数の漁獲高を誇る元気な地域である。多世代同居が多い。漁業の後継者も育ち、子供から高齢者まで、地域を大切に作る心が豊かである。市街地から、遠く離れていることもあり、介護保険事業所もなく、市社協がサテライトデイを南北2ヶ所の地区に設置運営していた。高齢者でも、現役で『浜の仕事』をしており、労働力となっている。介護は『家族・親類縁者が自宅でするもの』という意識が、地域全体に残っているという特性もある。子どもは、いつも高齢者と共に生活しているので、高齢者を大切に作る心も育てながら、成長しているようである。



事業所のプロフィール

高齢者支援の拠点が無い重茂地区に、空家活用により、地域密着型サービス事業所を開設してほしいという地域住民の要望があった。同様の意識を持つ者が集まり、重茂地区に地域密着型サービスを提供できる体制を整えようと奔走した。「NPO法人だから、やれる



のかもしれない。頑張れ」と応援されるほど、市街地から遠いという地理的条件がある。

『出会い・ふれあい・支え合い・助け合いのまちづくり、人づくり、仕事づくり、すまいづくり』の法人理念を貫き、「ひとりの困ったさん」を支え合う支援を継続している。漁業の地域独特の習慣風習を重んじた行事食、働くことが元気の素という利用者意識に添った野菜づくりや食事づくりなどの共同作業。地域や利用者の特徴を生かした支援を心がけている。



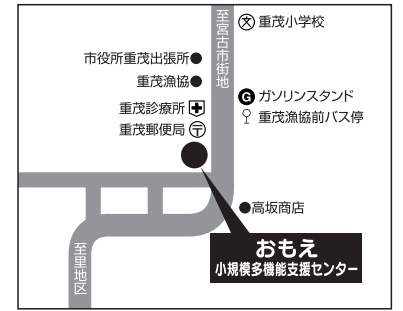
所在地 〒027-0111
岩手県宮古市重茂1-35-1

TEL 0193-89-5315

FAX 0193-89-5316

URL <http://ww71.tiki.ne.jp/~fureai-ai/>

E-mail



テーマ別取り組み状況「地域との係わり」について

重茂漁業協同組合へ加入していない世帯は数えるほどしかないという特徴がある地域である。

従って、海の仕事や漁協行事・会議などの予定を把握した上で、地域との連携を計らなければならない。

地区毎のお祭りの参加、地域児童館園児との定期的な交流、民生委員の皆さんとの懇談会や研修会、地域住民のお試し利用の実施や交流会、学校行事への参加、漁協主催の催しへの参加などにより、利用者が「働くだけで、地域のことを何も知らなかった」という状況に対応し、喜ばれている。

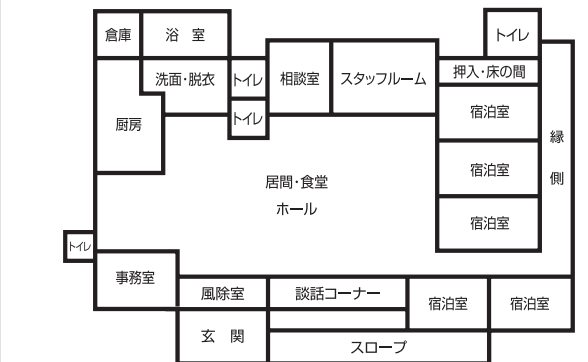
地域への啓蒙活動としては、家庭訪問による支援内容の説明、民生委員定例会での話し合い、漁協行事への出席による漁協役員との交流を積極的に行っている。



利用者＆地域の声

南北に長いこの地域には、南と北地域にサテライトデイサービスがある。平成19年福祉の拠点となるべく地域の中心に開設されたことに期待は大きい。建物からは、毎日楽しそうな笑い声と昔懐かしい歌声が流れる。利用者の家族は「急に出かけたい時お願いでき安心して外出できる。泊りたければ泊れる。自分も高齢なのでほんとうにありがたいことだ」と感謝の声が聞かれる。地域に密着し、支援の根幹として活動できる様応援したい。

施設の平面図



職員の声

サービスを提供するに当たって、利用される利用者さん、ご家族の方とのかわりはもちろんのこと、地域密着型サービスの名のとおり、地域とのかわりが非常に大事であるということを感じさせられながら職務についています。それまで自宅だけで生活していた方々が、地域で催される季節ごとの行事などに参加されることで、地域との繋がりを再構築し、地域の中で支えられながら暮らせる、そのようになることを願っています。

岩手県内小規模多機能型居宅介護事業所一覧

平成20年10月1日現在

事業所名称	小規模多機能型居宅介護事業所かまどっこ	事業者番号	0390100071	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	5	TEL	019-631-3897
運営主体	社会福祉法人藤実会	事務所等の所在地	岩手県盛岡市本宮字小幡130-1							FA	019-631-3898
事業所名称	えんどり小規模多機能型居宅介護事業所	事業者番号	0392200036	登録定員	18	通所定員	9	宿泊定員	6	TEL	019-671-3550
運営主体	特定非営利活動法人宅老所えんどり	事務所等の所在地	岩手県紫波郡紫波町二日町字山子36-2							FA	019-671-3551
事業所名称	小規模多機能型居宅介護事業所むつき	事業者番号	0392200010	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	8	TEL	019-697-1601
運営主体	社会福祉法人睦喜会	事務所等の所在地	岩手県紫波郡矢巾町太田第17地割13番地1							FA	019-697-1602
事業所名称	小規模多機能型居宅介護ほっかぼか花巻中央	事業者番号	0390500049	登録定員	12	通所定員	9	宿泊定員	5	TEL	0198-21-5556
運営主体	株式会社グランツ	事務所等の所在地	岩手県花巻市南万丁目1163-3							FA	0198-21-5557
事業所名称	小規模多機能型居宅介護ほっかぼか花巻西	事業者番号	0390500072	登録定員	20	通所定員	12	宿泊定員	5	TEL	0198-37-1237
運営主体	株式会社グランツ	事務所等の所在地	岩手県花巻市大畑第1地割62番地4							FA	0198-37-1238
事業所名称	小規模多機能ホームふんどかんど	事業者番号	0390500098	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	9	TEL	0198-36-1023
運営主体	特定非営利活動法人ともにあゆむ会	事務所等の所在地	岩手県花巻市大迫町大迫第1地割4番55							FA	0198-36-1030
事業所名称	小規模多機能ホームわが家	事業者番号	0390600021	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	7	TEL	0197-73-8355
運営主体	医療法人社団敬和会	事務所等の所在地	岩手県北上市和賀町煤孫10地割14番地5							FA	0197-73-8356
事業所名称	さくらまちケアホーム	事業者番号	0390600047	登録定員	24	通所定員	12	宿泊定員	5	TEL	0197-62-1168
運営主体	社会福祉法人博愛会	事務所等の所在地	岩手県北上市立花10地割36番地1							FA	0197-62-1167
事業所名称	小規模多機能型居宅介護事業所長寿庵	事業者番号	0390800027	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	9	TEL	0198-63-1328
運営主体	社会福祉法人とおの松寿会	事務所等の所在地	岩手県遠野市材木町2番22号							FA	0198-63-1338
事業所名称	介護ステーションゆいっこ小規模多機能ホーム	事業者番号	0392400024	登録定員	12	通所定員	6	宿泊定員	5	TEL	0197-85-3105
運営主体	特定非営利活動法人ゆいっこ	事務所等の所在地	岩手県和賀郡西和賀町沢内字新町4地割32番地1							FA	0197-85-3107
事業所名称	小規模多機能ホームひなたほっこ	事業者番号	0392400032	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	5	TEL	0197-81-1313
運営主体	社会福祉法人光寿会	事務所等の所在地	岩手県和賀郡西和賀町上野々39地割180番地							FA	0197-82-3939
事業所名称	奥州杏番館	事業者番号	0391500048	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	8	TEL	0197-24-7001
運営主体	有限会社ナカノメ	事務所等の所在地	岩手県奥州市水沢区字大町57番地							FA	0197-24-7061
事業所名称	介護予防施設西光荘	事業者番号	0392500039	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	5	TEL	0197-43-2340
運営主体	株式会社金ヶ崎福祉フロンティア	事務所等の所在地	岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根和光544番地2							FA	0197-43-2360
事業所名称	交流ステーション友愛園	事業者番号	0392500047	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	5	TEL	0197-42-2888
運営主体	社会福祉法人友愛会	事務所等の所在地	岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根矢来5番地							FA	0197-42-2888
事業所名称	企業組合労協センター事業団あつたかホームちゃごみ	事業者番号	0390900017	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	5	TEL	0191-33-1830
運営主体	企業組合労協センター事業団	事務所等の所在地	岩手県一関市赤荻字荻野330番地1							FA	

事業所名称	宅老所せんまや	事業者番号	0390900041	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	5	TEL	0191-51-3315
運営主体	特定非営利活動法人千厩まちかどケアセンター	事務所等の所在地	岩手県一関市千厩町千厩字町浦185番地							FA	0191-51-3351
事業所名称	医療法人白光 シルバーヘルス小規模多機能型居宅介護事業所「北斗」	事業者番号	0390900058	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	9	TEL	0191-26-0021
運営主体	医療法人白光	事務所等の所在地	岩手県一関市字沢298番地2							FA	0191-26-0022
事業所名称	小規模多機能ホーム「後ノ入」	事業者番号	0390300028	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	9	TEL	0192-21-2551
運営主体	社会福祉法人典人会	事務所等の所在地	岩手県大船渡市赤崎町字後ノ入73番地3							FA	0192-21-2552
事業所名称	多機能ホームさんりく	事業者番号	0390300036	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	9	TEL	0192-44-1717
運営主体	社会福祉法人三陸福祉会	事務所等の所在地	岩手県大船渡市三陸町越喜来字所通25-7							FA	0192-44-3660
事業所名称	小規模多機能ホーム「厨」	事業者番号	0391000031	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	9	TEL	0192-55-1833
運営主体	医療法人勝久会	事務所等の所在地	岩手県陸前高田市高田町中田76番地1							FA	0192-55-1833
事業所名称	小規模多機能ホーム「小百合」	事業者番号	0391000049	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	9	TEL	0192-56-2007
運営主体	医療法人勝久会	事務所等の所在地	岩手県陸前高田市小友町字谷地館51番地							FA	0192-56-2007
事業所名称	多機能ケアセンターほっと大町	事業者番号	0392900023	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	5	TEL	0193-41-1555
運営主体	社会福祉法人大槌町社会福祉協議会	事務所等の所在地	岩手県上閉伊郡大槌町大町5番2号							FA	0193-41-1556
事業所名称	かのん小規模多機能センター	事業者番号	0390200038	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	8	TEL	0193-65-1417
運営主体	有限会社ライフネットワーク	事務所等の所在地	岩手県宮古市実田1丁目7番28号							FA	0193-65-1410
事業所名称	おもえ小規模多機能支援センター	事業者番号	0390200087	登録定員	24	通所定員	12	宿泊定員	5	TEL	0193-89-5315
運営主体	特定非営利活動法人ふれあいステーション・あい	事務所等の所在地	岩手県宮古市重茂第1地割35番1							FA	0193-89-5316
事業所名称	小規模多機能型居宅介護事業所あすなろ	事業者番号	0390200095	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	6	TEL	0193-72-2020
運営主体	社会福祉法人新里紫桐会	事務所等の所在地	岩手県宮古市茂市第3地割128番地8							FA	0193-72-2021
事業所名称	小規模多機能センターやすらぎ	事業者番号	0393000039	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	6	TEL	0193-84-4438
運営主体	社会福祉法人親和会	事務所等の所在地	岩手県下閉伊郡山田町船越第6地割15番地2							FA	0193-84-4438
事業所名称	小規模多機能センターあお空	事業者番号	0393000021	登録定員	25	通所定員	15	宿泊定員	9	TEL	0194-28-3366
運営主体	有限会社介護施設あお空	事務所等の所在地	岩手県下閉伊郡岩泉町小本字南中野289番地							FA	0194-28-3366
事業所名称	小規模多機能ホームカッケロ	事業者番号	0393100029	登録定員	24	通所定員	12	宿泊定員	5	TEL	0194-68-5420
運営主体	株式会社ハートフェルトケア	事務所等の所在地	岩手県九戸郡洋野町中野第5地割62番地8							FA	0194-68-5170
事業所名称	小規模多機能ホーム「ほがら家」	事業者番号	0393100045	登録定員	22	通所定員	11	宿泊定員	3	TEL	0194-68-5700
運営主体	特定非営利活動法人あ・うん	事務所等の所在地	岩手県九戸郡洋野町小内第4地割85番地20							FA	
事業所名称	小規模多機能型居宅介護にこトピア浄法寺	事業者番号	0391300035	登録定員	24	通所定員	12	宿泊定員	5	TEL	0195-39-1313
運営主体	株式会社サンメディックス	事務所等の所在地	岩手県二戸市浄法寺町上前田34							FA	0195-39-1616

平成20年度地域密着型多機能ケア推進支援事業

〔事業委託〕

事務局 社会福祉法人とおの松寿会 地域密着型サービス拠点長寿庵
岩手県遠野市材木町2番22号 電話0198-63-1328
菊池浩之 泉田敦子

〔実行委員〕

○フォーラム担当委員

社会福祉法人典人会 小規模多機能ホーム「後ノ入」	高橋洋喜 小野寺真 河原明洋
特定非営利活動法人ゆいっこ 介護ステーションゆいっこ小規模多機能ホーム	柴田武
特定非営利活動法人ともにあゆむ会 小規模多機能ホームふんどかんど	佐々木敬尚

○事例集作成担当委員

社会福祉法人大槌町社会福祉協議会 多機能ケアセンターほっと大町	千葉万知子
特定非営利法人ふれあいステーション・あい おもえ小規模多機能支援センター	宇都宮ユリ子
社会福祉法人親和会 小規模多機能センターやすらぎ	蛇石陽
有限会社ライフネットワーク かのん小規模多機能センター	伊藤淳一
社会福祉法人新里紫桐会 小規模多機能型居宅介護事業所あすなろ	澤口将祐己
有限会社介護施設あお空 小規模多機能センターあお空	三田地裕香里

平成20年11月 発行

発行：社会福祉法人とおの松寿会（地域密着型サービス拠点長寿庵）
〒028-0521 岩手県遠野市材木町2-22
TEL 0198-63-1328 FAX 0198-63-1338
編集：小規模多機能型居宅介護事業所事例集作成委員会



平成20年度地域密着型多機能ケア推進支援事業 小規模多機能型居宅介護事業所事例集「一歩」

新しく歩み始めた小規模多機能サービスの利用者様や職員の前向きで力強い想いが伝わるよう「一歩」としました。

表題は小規模多機能センターあお空の三田地裕香里さんより提案をいただき、かんのん小規模多機能センターの利用者佐々木伊右衛門さんより麻痺のある右手で書いていただきました。